

- 一 貨物陸揚業
 - 一 鐵道業
 - 一 土木請負業
 - 一 勞力請負業
 - 一 印刷業
 - 一 寫真業
 - 一 席貸業
 - 一 旅人宿業
 - 一 料理店業
 - 一 公ナル周旋業
 - 一 代辦業
 - 一 仲立業
 - 一 仲買業
- 第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ
左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス
- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ仕拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
 - 二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者
 - 三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等ノ產物ヲ販賣スル者
 - 四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
 - 五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノ、貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ
瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ二 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス
第七條 印刷業、寫真業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物貸賃價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス
第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作、修葺、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額 建物賃貸價格 從業者	御後ハ萬分ノ五 小賣ハ萬分ノ十五 千人ノ四十 一人毎ニ金一圓
銀行業、保險業、金錢貸付業、物品貸付業	資本金額 建物賃貸價格 從業者	千人ノ二 千人ノ四十 一人毎ニ金一圓
倉庫業	資本金額 建物賃貸價格 從業者	千人ノ二 千人ノ二十 一人毎ニ金一圓
製造業、印刷業、寫眞業	資本金額 建物賃貸價格 從業者	千人ノ一 千人ノ四十 一人毎ニ金一圓
運送業、運河業、橋梁業、船渠業、船舶碇泊業、貨物陸揚場業	資本金額 從業者	千人ノ二半 一人毎ニ金一圓
土木請負業、勞力請負業	請負金額 從業者	千人ノ二 一人毎ニ金一圓
席貸業、料理店業	建物賃貸價格 從業者	千人ノ六十 一人毎ニ金一圓

旅人宿業 建物賃貸價格
從業者

千人ノ四十
一人毎ニ金一圓

公ナル周旋業、代辦業、報償金額業、仲立業、仲買業 從業者

千人ノ十五
一人毎ニ金一圓

第十三條 此稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ

營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ届出ヘシ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ各店舗其他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其他ノ營業場數箇所アルトキ其資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル各店舗其他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ内國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル
- 二 資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル
- 三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ム

ルトキハ政府ハ其ノ課税標準ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃貸價格ハ店舖其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス
借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃貸價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃貸價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其賃貸價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス
第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲グル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ税法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業、鐵道業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス
但シ他ニ其營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其期間ハ後ノ營業者ニ及ブモノトス

第二十六條 政府ニ於テ課税標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス
第二十八條ノ二 各(稅務管理局)所轄内ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員ノ定數及審査委員會ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
審査委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得
第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業稅ハ政府ニ其由ヲ申立ツルコトヲ得
一 課税ノ標準タル資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額、報酬金額、又ハ建物賃貸價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課税ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課税標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ税金ヲ減額スルコトヲ得

一 課税ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報酬金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃貸價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

二 課税ノ標準タル從業者ノ人員其多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其割合ヲ以テ税金ヲ徵收ス
第三十二條 第一條ニ掲グル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金

錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十六條 府縣ハ此ノ税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得此附加税ノ外府縣税又ハ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條 此税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年九月ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年九月ニ屬スル府縣税又ハ地方税ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此税法ノ營業税ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十条五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此法律施行地ト此法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舗其他ノ營業場數箇所アル場所ニ之ヲ準用ス

第十四章 營業税法施行規則

明治二十九年七月二十一日 勅令第二百六十九號 改正 三十五年 三六六年 第三二〇號 第九九號

朕營業税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業税法施行規則

第一條 營業税法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業税ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店

舖其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項ノ末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ届出ツヘシ

左ノ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ稅務署ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ增加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業税法第十二條ノ課税標準ヲ計算スヘシ但シ課税標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ税率ノ最重キ營業、税率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課税標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業税法第十二條ノ課税標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業税法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業税ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課税標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス

第六條ノ一 合資會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條ノ二 株式合資會社ニ於テ課税標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル出資金額、拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ノ一 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ノ二 株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合名會社ニ於テ營業稅法第一條ニ掲ケル營業ト同條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタル資本金額中ヨリ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

第八條 一個人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月本ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ第十條 (削除)

第十一條 營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃貸價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セズ

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ移轉先ノ稅務署ニ届出ヘシ

第十五條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署ニ届出ヘシ

第十六條 納稅義務アル營業者第一條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務署長ハ營業稅法第十六條ノ算定法ニ依リ其課稅標準ヲ算定スヘシ

第十七條 稅務署長前條ニ依リ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其ノ算定ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條ノ期限内ニ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ申出ヘシ

第十九條 稅務監督局長課稅標準審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅標準ヲ決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十七條第二項ヲ準用ス

第二十條 審査委員ノ定數ハ五人トス

第二十一條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十二條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十三條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十四條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條 審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社ノ課稅標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ稅務署ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ稅務署ニ届出ヘシ

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢查スルトキハ稅務署ノ檢查章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ

第十五章 登錄稅法

明治二十九年三月二十八日 法律第二十號

改正
 第三〇年 第三一號 第三二號 第三三號 第三四號 第三五號
 第三一號 第三二號 第三三號 第三四號 第三五號
 第三六號 第三七號 第三八號 第三九號 第四〇號
 第四一號 第四二號 第四三號 第四四號 第四五號
 第四六號 第四七號 第四八號 第四九號 第五〇號
 第五一號 第五二號 第五三號 第五四號 第五五號
 第五六號 第五七號 第五八號 第五九號 第六〇號
 第六一號 第六二號 第六三號 第六四號 第六五號
 第六六號 第六七號 第六八號 第六九號 第七〇號
 第七一號 第七二號 第七三號 第七四號 第七五號
 第七六號 第七七號 第七八號 第七九號 第八〇號
 第八一號 第八二號 第八三號 第八四號 第八五號
 第八六號 第八七號 第八八號 第八九號 第九〇號
 第九一號 第九二號 第九三號 第九四號 第九五號
 第九六號 第九七號 第九八號 第九九號 第一百號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登錄稅法

第一條 登錄稅法ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得
 不動産價格 千分ノ五

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得
 不動産價格 千分ノ五

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
 不動産價格 千分ノ四

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ十

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得
 不動産價格 千分ノ二十五

五 從來保有セル所有權ノ保存

六 共有物ノ分割

七 永代ノ地上權ノ取得

八 地上權、永小作權ノ取得

存續期間十年未滿

存續期間二十年未滿

存續期間三十年未滿

存續期間三十年以上

存續期間ノ定メナキモノ

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

看做シ登錄稅ヲ計算ス

九 賃借權ノ取得

存續期間十年未滿

存續期間十年以上

存續期間ノ定メナキモノ

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期限ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

看做シ登錄稅ヲ計算ス

十 地投權ノ取得

十一 華族世襲財產ノ創設

十二 先取特權保存又ハ取得

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

要役地價格 千分ノ一

不動産價格 千分ノ二

不動産價格 千分ノ二

不動産價格 千分ノ一

要役地價格 千分ノ一

不動産價格 千分ノ二

不動産價格 千分ノ二

不動産價格 千分ノ一

要役地價格 千分ノ一

十三 質權、抵當權ノ取得

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四 競賣、強制管理ノ申立

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五 假差押、假處分

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六 抵當アル債權ノ差押

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七 相續財産ノ分離

所有權ニ付テハ

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

十九 假登記

二十 削除

二十一 附記登記

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

二十二 登記ノ更正變更又ハ抹消

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

債權金額 千分ノ六

債權金額 千分ノ六

債權金額 千分ノ四

債權金額 千分ノ六

不動産價格 千分ノ六

不動産價格 千分ノ一

不動産每一箇 金二十錢

不動産每一箇 金二十錢

不動産每一箇 金十錢

不動産每一箇 金十錢

第三條

船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

五 從來保有セル所有權ノ保存

六 質借權ノ取得

存續期間十年未滿

存續期間十年以上

存續期間ノ定メナキモノ

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

七 質權、抵當權ノ取得

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 競賣ノ申立

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 抵當アル債權ノ差押

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

船舶價格 千分ノ三

船舶價格 千分ノ三

船舶價格 千分ノ二十

船舶價格 千分ノ十五

船舶價格 千分ノ一

船舶價格 千分ノ一

船舶價格 千分ノ二

船舶價格 千分ノ一

債權金額 千分ノ六

債權金額 千分ノ六

債權金額 千分ノ四

債權金額 千分ノ六

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

船舶每一箇 金二十錢

十二 假登記

船舶每一箇 金二十錢

十三 削除

十四 附記登記

船舶每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

船舶每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 鐵道抵當原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 登錄ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二圓

第三條ノ三 工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分

債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二圓

第三條ノ四 鐵業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分

債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二圓

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

每十噸 金五十錢

二 轉籍

每十噸 金十錢

三 除籍

每十噸 金五錢

四 登録ノ變更

船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

地價 千分ノ二十

二 地價ノ設定

地價 千分ノ十

三 地價ノ修正

地價 千分ノ十

四 開墾

地價 千分ノ十

五 開墾後下年期附與

地價 千分ノ十

六 地價据置年期付與

地價 千分ノ十

七 新開免租年期延長

地價 千分ノ十

八 減下年期、地價据置年期ノ延長

地價 千分ノ十

九 低價年期ノ付與

地價 千分ノ一

十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正

地價 千分ノ一

十一 地價ノ復舊

地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ税金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス

- 一 合名會社、合資會社設立
 - 二 合名會社、合資會社出資増加
 - 三 株式會社設立
 - 四 株式會社資本増加
 - 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込
 - 六 株式合資會社設立
 - 七 株式合資會社資本増加
 - 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
 - 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
 - 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加
 - 十一 債券發行
 - 十二 支店設置
 - 十三 本店又ハ支店ノ移轉
 - 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 - 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
 - 十六 登記ノ更正又ハ抹消
 - 十七 解散
 - 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更
 - 十九 清算ノ結了
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- | | | |
|--------------------|----------------------------|------|
| 一 合名會社、合資會社設立 | 財團ヲ目的トスル出資ノ價格 | 千分ノ三 |
| 二 合名會社、合資會社出資増加 | 財團ヲ目的トスル出資ノ價格 | 千分ノ三 |
| 三 株式會社設立 | 拂込株金額 | 千分ノ四 |
| 四 株式會社資本増加 | 増資拂込株金額 | 千分ノ四 |
| 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 | 毎回拂込株金額 | 千分ノ四 |
| 六 株式合資會社設立 | 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 | 千分ノ四 |
| 七 株式合資會社資本増加 | 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 | 千分ノ四 |
| 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 | 毎回拂込株金額 | 千分ノ四 |
| 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立 | 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 | 千分ノ一 |
| 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加 | 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 | 千分ノ一 |
| 十一 債券發行 | 債權總金額 | 千分ノ一 |
| 十二 支店設置 | 每一箇所 | 金十圓 |
| 十三 本店又ハ支店ノ移轉 | 每一件 | 金五圓 |
| 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 | 每一件 | 金五圓 |
| 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 | 每一件 | 金五圓 |
| 十六 登記ノ更正又ハ抹消 | 每一件 | 金五圓 |
| 十七 解散 | 每一件 | 金三圓 |
| 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 | 每一件 | 金一圓 |
| 十九 清算ノ結了 | 每一件 | 金一圓 |

- 一 法人ノ設立(民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノノ新ニ受クル登記トモ)
 - 二 法人設立後ノ事務所設置
 - 三 事務所ノ移轉
 - 四 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
 - 五 登記ノ更正又ハ抹消
 - 六 解散
 - 七 清算人ノ選任、解任又ハ變更
 - 八 清算ノ結了
- 主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 商號ノ新設又ハ取得
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記
 - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
 - 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
 - 七 登記ノ更正又ハ抹消
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録
- | | | |
|---------------------------------|-----|-----|
| 一 商號ノ新設又ハ取得 | 每一件 | 金五圓 |
| 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 | 每一件 | 金五圓 |
| 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 | 每一件 | 金五圓 |
| 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 | 每一件 | 金二圓 |
| 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 | 每一件 | 金二圓 |
| 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 | 每一件 | 金一圓 |
| 七 登記ノ更正又ハ抹消 | 每一件 | 金一圓 |
- 金二十圓

二 登錄換

三 取消ノ請求

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

醫師

藥劑師

獸醫

蹄鐵工

假開業醫師

假免許獸醫

假免許蹄鐵工

二 登錄事項ノ變更

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

金一圓

金二十圓

金十二圓

金十二圓

金五圓

金五圓

金三圓

金一圓

金五十錢

金一圓

金一圓

金五十錢

金一圓

金十五圓

金十圓

金六圓

金十圓

金四圓

金三圓

金六圓

金二圓

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

水先人

二 登錄事項ノ變更

第十條 著作權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 文藝、學術、美術ノ著作物

但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク

一 新聞紙及定期刊行物

一 演劇脚本

一 寫眞

一 著作權ノ讓渡又ハ質入

一 無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ實名登錄

第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 讓渡又ハ共有

二 質入

第十二條 意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 讓渡又ハ共有

二 質入

第十三條ノ二 實用新案ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 讓渡又ハ共有

第十二編 租稅 專章 第十三章 登録稅法

九九五

二 實施ノ許諾又ハ質入

第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登録ヲ受クル者ハ左ノ登録税ヲ納ムヘシ
讓渡又ハ共有

每一件 金二圓
商品一類毎ニ 金十圓

第十四條 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 試掘權ノ設定 每一件 金七十五圓

二 試掘權ノ變更 增區又ハ増減區 每一件 金三十五圓
減區 每一件 金十圓

三 試掘權ノ移轉 相續 每一件 金十圓

四 探掘權ノ設定 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金三十五圓

新規登録 每一件 金百五十圓
鑛區合併 每一件 金五十圓
鑛區分割 設定區域 每一箇 金五十圓

五 探掘權ノ變更 鑛區訂正 每一件 金五十圓

增區又ハ増減區 減區 每一件 金七十五圓
每一件 金二十圓

六 探掘權ノ移轉 相續 每一件 金二十圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金七十五圓

七 抵當權ノ設定

新規登録

鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定

債權金額 千分ノ六

八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金五圓

九 抵當權ノ移轉 相續 每一件 金十圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓

共同鑛業權者ノ脱退 每一件 金十圓

十一 滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四

十二 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 每一件 金五圓

十三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金十圓

債權金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十五條 [削除]

第十六條 [削除]

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
第十九條 左ニ掲グルモノニハ登録税ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記
- 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記

四 明治六年第十八號布告地所買入書入規則及同八年第四百十八號布告建物書入買規則ニ從ヒテ公證ヲ經

タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選
定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス
官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十二條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施
行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十六章 登録税法施行規則

明治三十二年五月十九日 勅令第百五十五號 改正 三十八年 第七七號

朕登録税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録税法施行規則

第一條 印紙ヲ以テ收ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又
ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證
書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ

第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印
紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手
續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第五條ノ二 管轄官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務
署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ

第六條 登録税法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓以下ノ範圍内ニ於
テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

第十七章 相續税法

明治三十八年一月一日 法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル相續税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

相續税法

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト
否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續税ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲ケル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

- 一 本法施行地ニ在ル動産及不動産
- 二 本法施行地ニ在ル不動産ノ上ニ存スル權利
- 三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產
トス

船舶開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモ
ノト看做ス

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開

始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

- 一 公課
- 二 被相続人ノ葬式費用
- 三 債務

被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

- 一 其ノ財産ニ依ル公課
- 二 其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務
- 三 其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續税ノ課税價格ニ算入セス
公共團體又ハ慈善事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課税價格ニ算入セス

第四條 相續財産ノ價額ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル

- 船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス
 - 一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年數ニ應シ一年ニ付其ノ二十五分ノ一宛ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ價額トス但シ製造後二十年ヲ經過シタルモノハ製造費ノ五分ノ一ヲ以テ其ノ價額トス
 - 一年ニ滿タサル端數ハ之ヲ一年トシテ計算ス
- 二 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス
 - 殘存期間十年以下ナルモノ 二 倍
 - 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
- 殘存期間三十年以下ナルモノ

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三 倍

殘存期間五十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定ナキモノ 五 倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 七 倍

殘存期間百年以下ナルモノ 十二 倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

三 永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價格トス

殘存期間十年以下ナルモノ 二 倍

永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三 倍

殘存期間三十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定メナキモノ 五 倍

永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

四 有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

五 無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

- 六 終身定期金ノ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス
 - 二十歳未滿ノ者 十 年
 - 三十歳未滿ノ者 八 年
 - 四十歳未滿ノ者 六 年
 - 五十歳未滿ノ者 四 年

六十歳未満ノ者
六十歳以上ノ者
一 年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保険料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條 課稅價格カ家督相續ニ在リテハ千圓、遺産相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス

第七條 軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰争ノ爲受ケタル傷疾疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷疾者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續

課稅價格	稅率	相續人カ被相續人ノ家族タル直系尊屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ入夫ナル時	相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ十二	千分ノ十二	千分ノ十五	千分ノ二十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ二十五	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ三十	千分ノ四十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ三十五	千分ノ四十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ四十	千分ノ五十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ四十五	千分ノ六十
十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至テ止ム)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

課稅價格	稅率	相續人カ直系尊屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓以下ノ金額	千分ノ十五	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ二十五	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ三十	千分ノ四十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ三十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ四十	千分ノ五十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ四十五	千分ノ六十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ五十	千分ノ六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ五十五	千分ノ六十
十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至テ止ム)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ準用ス

第九條 相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ對スル稅率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得

相續人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相續人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相續稅ヲ課ス

前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ税金ノ差額ヲ追徵シ又ハ還付ス

第十條 相續稅ヲ課セシレタル後三年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

相續稅ヲ課セシレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國內ニ住所ヲ有サセルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條 戶籍吏左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

一 死亡又ハ失踪

二 戶主ノ隱居又ハ國籍喪失

三 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四 入夫婚姻ニ因リ女戶主カ戶主權ヲ喪失シタルコト

五 戶主タル入夫ノ離婚

第十三條 課稅價格ハ政府之ヲ決定ス

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

第十四條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條 相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ三年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第十八條 審査ヲ求メ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ税金ヲ納付スヘシ

第十九條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅ヲ納付シ又ハ其延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 相續財產ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年内ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財產ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 相續稅ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

第十二編 租稅 專章 第十七章 相續稅法

1005

前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認
ムル所ニ依リ課税價格ヲ決定シ備告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相續人、遺言執行者又
ハ相續財産管理人ヨリ徴收スルコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徴收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徴收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財産ニ付爲シタル贈與ノ價額カ五百
圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課税價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課
ス

一 被相續人カ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタル
トキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ遁脫
ヲ圖リ又ハ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫シ又ハ遁脫セムトシタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

但シ自首シタル者ハ其ノ税金ヲ徴收シ其ノ罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八章 相續稅法施行規則

明治三十八年三月二十三日
勅令 第六十八號

朕相續稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

相續稅法施行規則

第一條 相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續稅ノ所轄稅務署トス

相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相續財産所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署
トス相續財産カ二箇以上ノ稅務署管内ニ在ルトキハ其ノ主タル財産ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署ト
ス

第二條 相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ相續稅法第十一條第一項ニ定メタル
期間内ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財産目錄及相續財産ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明
細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類
ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一 被相續人ノ氏名

二 相續開始地

三 相續開始ノ日

四 家督相續、遺產相續ノ區別

五 被相續人カ相續開始前一年内ニ相續稅法施行地ニ在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財産ノ價額
及受贈者ノ住所氏名

六 相續人ノ住所氏名

七 相續人ト被相續人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セサル
理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條 稅務署長ハ相續財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求ムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條 稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相續稅審查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審查委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 審查委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス審查委員ノ任期ハ三年トス

第八條 審查委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條 審查委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審查委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審查委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審查委員中ノ年長者ヲ代理スヘシ

第十一條 審查委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 審查委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關スル審查ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審查委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財産ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條 相續稅ノ年賦延納ヲ求メトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 増擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ稅金ニ宛テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯

納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ
 第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ
 前項ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九章 酒造稅法

明治二十九年三月二十八日 法律第二十八號

改正 三十一年 第三三三號 三十四年 第七號 三十八年 第三號 四一年 第一八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒造稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造稅法

第一條ノ一 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス
 第一條ノ二 此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及ヒ水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ
 左ニ掲クルモノハ清酒ト看做ス
 一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ
 二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ
 三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三 此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四 此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五 此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノハ味淋ト看做ス

第一條ノ六 此ノ稅法ニ於テ耐燒ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ

左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ耐燒ト看做ス

- 一 清酒
- 二 濁酒
- 三 味淋粕
- 四 米、麥、粟、黍、稗若ハ甘藷ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ヲ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應ジ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋、燒酎 一石ニ付 金二十四圓

第二種 酒精分三十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金二十五圓

第三種 酒精分四十度以下ノ燒酎、

一石ニ付 金三十圓

第四種 酒精分四十五度以下ノ燒酎

一石ニ付 金三十五圓

第五種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎

一石ニ付 酒精分一度毎ニ金一圓

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ百石濁酒ハ五十石燒酎ハ五石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セズ

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セザリシ石數ニ對シテハ其ノ

年五月一日ヨリ九月三十日マテニ査定シタルモノト看做シ第四條第一項ノ稅率ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條 第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲サザルトキハ前條ノ納期ニ拘ハラズ造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ差引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル膠ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタル者トシテ其ノ造石數ヲ査定ス

- 一 他人ニ讓渡ストキ
- 二 公賣セラルトキ
- 三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
- 二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ
- 三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ
- 四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脱去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項

ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ
毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石税ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石税金額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得
前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サス
保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

二 納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三 造石税ヲ前納シタルトキ

四 酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ

第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徴收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徴收スヘキ税金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組員ハ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收税官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 (削除)

第二十一條 (削除)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ハラズ其ノ造石税ヲ徴收ス

第二十三條 (削除)

第二十三條ノ二 (削除)

第二十三條ノ三 (削除)

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十六條 納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受ケルモ仍稅額ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十七條 酒類製造用ト否ト問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第三十三條 第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行為ヲ繼續セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

第三十五條ノ二 此ノ税法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ税法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ税法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス
前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條 (削除)

第三十九條 沖繩縣ヲ除ク外此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ法律施行地ニ移出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第四十條 (削除)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十八條削除ニ關スル規定ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス非常特別稅法中酒造稅法ニ依ル酒類及沖繩縣酒類出港稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十章 酒造稅法施行規則

明治二十九年八月十八日
勅令第二百八十七號
改正 三〇年 三一年 三四年 三五年
三八四號 三六二號 一六四號 二五三號
三八年 四一年
第三號 第一八號

朕酒造稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造稅法施行規則

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

酒類ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ稅務署長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受ケヘシ

第六條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相場ノ場合ヲ除外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受ケヘシ

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第六條ノ四 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造稅法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ查定スヘシ

第九條 酒造稅法第八條第二項但書ニ依リ滓引減量トシテ控除スル查定石數ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル清酒ニ關シテハ滓引減量ヲ控除セス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醗、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ查定スヘシ

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ檢査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、買入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラル、トキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ查定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ查定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ查定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醗ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醗又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其旨直ニ稅務署長ニ申告ス

ヘシ

第十八條 酒造税法第十二條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハントスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカヲサル處置ヲ施シタルト認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカヲサルニ至リタル酒類ヲ以テ燻附ノ製造用ニ供セムトスルモノハ税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燻附ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造著手前ニ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ

保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル
一 金錢
二 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券
三 土地
四 火災保險ニ付シタル建物

第二十二條 (削除)
第二十三條 保險物中金錢、有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出シ土地、建物ニ關シテハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受ケルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條 稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ稅務署長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主税金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ税金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍税金ニ不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受ケヘシ

第三十三條 稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ検査スヘシ

第十二編 租稅 專章 第十九章 酒造税法

第三十五條 收税官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收税官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得

收税官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 收税官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ検査ヲ受クヘシ

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 左ニ掲ケル場合ニ於テ收税官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ
 - 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ
 - 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ
 - 四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ
 - 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
 - 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ
 - 七 前各號ノ外收税官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ
- 第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ
- 第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以

上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十二條ノ二 酒造稅法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醪其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ二 收税官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附則

第四十四條 酒造稅法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ

第四十五條 酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ、地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

第二十一章 醬油稅則

明治二十一年六月十八日勅令第四十七號

改正 二九年 三二年 三七年 三九年
第六四號 第二五號 第七號 第一六號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十二編 租稅 專章 第二十一章 醬油稅則

醬油稅則

第一條 醬油油ヲ併ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ

- 一 醬油 諸味一石ニ付 金一圓七十五錢
- 二 溜 製成一石ニ付 金一圓六十五錢

第三條 削除

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ

第二期 七月三十一日限 一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第三期 十一月三十日限 五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第四期 翌年三月三十一日限 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ官廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油ト混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ官廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り官廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ

受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ官廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニ造石稅ヲ課セス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ官廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢業ニ屬シタルトキハ直チニ官廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 削除

第十五條 削除

第十六條 削除

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第十條ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條ヲ犯シタル者又ハ逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐

リタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第六條ノ検査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 削除

第二十四條 此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此税則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

第二十九條 削除

附則

醬油製造人カ本法施行前ニ買受ケタル鹽ヲ以テ仕込ミタル醬油ニ關シテハ本法施行後ト雖舊税率ニ依リ造石税ヲ課ス

改正税率ニ依リ造石税ヲ課セラルル醬油ニ付テハ非常特別税法ニ依ル醬油税ノ増徴ヲ爲サス

第二十二章 醬油税則施行規則

明治三十三年三月七日
勅令第四十六號

改正 三五年 三七年 三八年
三五三號 第八八號 第六號

朕醬油税則施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油税則施行規則

第一條 醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ製造場及居所、氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申請シ其免許ヲ受クヘシ但シ自家用ノミノ醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

醬油製造場ヲ移轉セムトスルトキハ稅務管理局長ニ申請シテ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 削除

第三條 醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 醬油製造人ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物、詳細ナル圖面並醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務管理局長ニ提出スヘシ

前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條 醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

稅務管理局長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ

第六條 醬油製造人ハ毎年見込仕込石數、見込査定石數及製造方法ヲ記シ前年十二月中ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其ノ旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要ス

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

第七條 醬油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其旨所轄稅務署長ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外醬油製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醬油税則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條ノ二 醬油製造人其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第七條ノ三 醬油製造人其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

第八條 醬油ノ造石税ハ其ノ製造所所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第九條 醬油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醬油又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第十條 醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セムトスルトキハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ検査ヲ受クヘシ

前項ニ依リ検査ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務署長ニ申告スヘシ

第十一條 前條第一項ニ依リ検査ヲ受ケタル醬油ヲ賣渡、貸渡、讓渡又ハ自用シ若ハ前條第二項ノ申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ検査石數ニ依リ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十二條 左ニ掲グル場合ニ於テ收稅官吏力必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ醬油製造人ハ其承認ヲ受クヘシ

- 一 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
- 二 原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ
- 三 諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變換セムトスルトキ
- 四 前各號ノ外收稅官吏力指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十三條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務管理署長ニ申告スヘシ

第十四條 醬油税則第十一條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハントスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十五條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

第十六條 外國ニ輸出シタル醬油ノ造石税下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ検査濟證明書並輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ他ノ外ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第十七條 醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管内ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル但シ輸出醬油ノ造石税下戻ノ場合ニ於テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル

第十八條 溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

第十九條 醬油製人ハ毎年一月三十一日限り前年中ニ製造シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテハ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條 醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十一條 本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ製油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

第二十三章 印紙税法

明治三十二年三月十日 法律第五十四號 改正 三十四年 四〇年 第一六號 第二七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル印紙税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙税法

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若クハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若クハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此法律ニ依リ印紙税ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙税ヲ納ムヘシ但シ印紙税額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上グルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額單位又ハ其他ノ記載事項ニ依リ其金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ

其總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

- 第三條 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
- 金高千圓以下ノモノ 印紙稅 五錢
 - 金高五千圓以下ノモノ 印紙稅 十錢
 - 金高一萬圓以下ノモノ 印紙稅 二十錢
 - 金高二萬圓以下ノモノ 印紙稅 五十錢
 - 金高三萬圓以下ノモノ 印紙稅 一圓
 - 金高五萬圓以下ノモノ 印紙稅 二圓
 - 金高十萬圓以下ノモノ 印紙稅 四圓
 - 金高十萬圓ヲ超ユルモノ 印紙稅 七圓
- 第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
- 一 委任狀 印紙稅 一錢
 - 一 爲替手形 印紙稅 二錢
 - 一 銀行預金證書 印紙稅 二錢
 - 一 船荷證券 印紙稅 二錢
 - 一 運送貨物引換證 印紙稅 二錢
 - 一 倉荷預證券 印紙稅 二錢
 - 一 倉荷質入證券 印紙稅 二錢
 - 一 保險證券 印紙稅 二錢
 - 一 株券 印紙稅 二錢
 - 一 債券 印紙稅 二錢

- 一 株式申込證 印紙稅 二錢
 - 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙稅 二錢
 - 一 使用貸借、質貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙稅 二錢
 - 一 定款及組合契約書 印紙稅 二錢
 - 一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙稅 二錢
 - 一 追認、承認ニ關スル證書 印紙稅 二錢
 - 一 物品切手 印紙稅 二錢
 - 一 賣買仕切書 印紙稅 二錢
 - 一 送狀 印紙稅 二錢
 - 一 受取書 印紙稅 二錢
 - 一 金高記載ナキ證書 印紙稅 二錢
 - 一 擔保品差入證書、擔保品預證券 印紙稅 二錢
 - 一 通帳 印紙稅 二錢
 - 一 判取帳 印紙稅 二十錢
- 第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
 - 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
 - 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
 - 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
 - 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金 恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
 - 一 小切手
 - 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形

- 一 營業ニ關セサル受取書
 - 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
 - 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
 - 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記シタル受取書
 - 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載
 - 一 手形ノ引受、保證
 - 一 手形及證券ノ拒絕證書
 - 一 手形及證券ノ原本、謄本
- 第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得
- 第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス
- 第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ
- 第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ
- 第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス
- 第十二條 第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十四條 此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス
- 第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

附則

- 第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ
- 附則
- 本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十四章 賣藥稅法

明治三十八年五月六日 法律第七十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル賣藥稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賣藥稅法

- 第一條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥稅ヲ課ス
- 定價一錢未満ナルトキ又ハ一錢未満ノ端數アルトキハ一錢未満ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥稅ヲ計算ス
- 第二條 賣藥稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス
- 第三條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ其ノ賣藥稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シ印紙面ヨリ他所ニカケ消印スヘシ
- 第四條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第五條 賣藥營業者定價ヲ增加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ定價ヲ改記シ其ノ賣藥稅ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ
- 第六條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條 賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

賣藥請賣者又ハ行商者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收税官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見スルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ費用徴收ニハ國稅徴收法ノ規定ヲ準用ス

第九條 收税官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲シ又ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣藥稅ヲ免除ス

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第七條、第八條及第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性效ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脱稅高二十倍ノ罰金ニ處ス但シ脱稅高二十倍ノ金額五圓ニ達セサルトキハ五圓ノ罰金ニ處ス

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス因リテ脱稅ヲ爲シタル者ハ前項ニ依リテ處斷ス

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

賣藥請賣者又ハ行商者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商者賣藥ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 收税官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依リ

第十六條 本法ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十七條 賣藥營業者、請賣者及行商者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣及行商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

賣藥類似品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
賣藥印紙規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

第二十五章 賣藥稅法施行規則

明治三十八年五月六日
勅令第百五十五號

朕賣藥稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賣藥稅法施行規則

第十二編 租稅 專賣 第二十五章 賣藥稅法施行規則

- 第一條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ
- 第二條 賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 - 一 製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日
 - 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先
 - 三 買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先
 - 四 貼用シタル印紙ノ數量、金額
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス
- 第三條 賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 - 一 引取リタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先
 - 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日
- 第四條 收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ
- 第五條 賣藥ヲ外國ニ輸出ノ賣藥稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ
- 前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ
- 前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ
- 第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサルトキハ承認ハ其ノ效力ヲ失フ
- 前條第一項ノ承認ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ
- 前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

- 第七條 賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受ケヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其ノ賣藥ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス
 - 一 既貼印紙ノ金額一口十圓未滿ナルトキ
 - 二 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ
 - 三 既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ
- 第九條 印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル
 - 一 既貼印紙 二十四未滿一圓ニ付 新印紙 八十錢
 - 二 既貼印紙 二十圓以上一圓ニ付 新印紙 八十五錢
- 第十條 所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交附スヘシ
- 第十一條 藥品ヲ用キ又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 疾病ヲ豫防スルコト
 - 二 治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スルコト
 - 三 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト
 - 四 疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト
- 第十二條 前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其物品ノ製造方法及效能ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ
- 第十三條 收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條 本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附則

本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六章 非常特別稅法

明治三十七年四月一日 改正 三十八年 三十九年 第七號 第一九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非常特別稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非常特別稅法

第一條 (削除)

第二條 左ニ掲グル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徴ス

一 地租

市街宅地 地價百分ノ十七箇五

郡村宅地 地價百分ノ五箇五

其ノ他ノ土地 地價百分ノ三箇

二 營業稅 營業稅法ニ依ル稅額十五割

三 所得稅

第一種 所得

甲 株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會

社 所得稅法ニ依ル稅額十五割

乙 其ノ他ノ法人

所得稅法ニ依ル稅額八割

所得稅法ニ依ル稅額九割

所得金額一萬五千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十割

所得金額二萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十二割

所得金額三萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十七割

所得金額五萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額二十三割

所得金額十萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額三十割

所得金額十萬圓以上 所得稅法ニ依ル稅額四十割

第三種 所得

所得金額五百圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十割

所得金額千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十一割

所得金額五千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十三割

所得金額一萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十四割

所得金額二萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十五割

所得金額三萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十七割

所得金額五萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十九割

所得金額十萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額二十一割

所得金額十萬圓以上 所得稅法ニ依ル稅額二十四割

所得金額十萬圓以上 所得稅法ニ依ル稅額二十七割

四 酒稅

酒造稅法ニ依ル酒類

第一種

一石ニ付金二圓

第二種

一石ニ付金二圓

第三種

一石ニ付金二圓

第十三編 租稅 專章 第二十六章 非常特別稅法

第四種
第五種

一石ニ付金二圓
一石ニ付酒精分一度毎ニ金十錢
一石ニ付金一圓

麥酒
酒精又ハ酒精含有飲料

原容量百分中純酒精ノ容量二十以下ノモノ
一石ニ付金二圓
原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ
一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金十錢
沖繩縣酒類出港稅
酒造稅法ニ依ル酒類ニ對スル増徴稅率ニ同シ

五 砂糖消費稅

第一種
第二種
第三種
第四種

百斤ニ付金一圓
百斤ニ付金二圓八十錢
百斤ニ付金四圓三十錢
百斤ニ付金四圓七十錢

六 [醬油稅]

[醬油稅則第二條本文ニ依ル場合]

[醬油]

[諸味一石ニ付金五十錢]
[製成一石ニ付金五十錢]

[醬油稅則第二條但書ニ依ル場合]

[醬油]

[諸味一石ニ付金二十五錢]
[製成一石ニ付金二十五錢]

七 登錄稅

不動產ニ關スル登記
登錄稅法第二條第三號ノ登記

不動產價格千分ノ二十

登錄稅法第二條第四號ノ登記
從來保有セル所有權ノ保存
華族世襲財產ノ創設

不動產價格千分ノ十
不動產價格千分ノ三
不動產價格千分ノ五

船舶ニ關スル登記

登錄稅法第三條第三號ノ登記

登錄稅法第三條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

登錄稅法第六條及第六號ノ二ニ依ル登錄稅

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ

課稅標準千分ノ一

一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金十圓ナルトキ金五圓
稅額金五圓ナルトキ金二圓
稅額金三圓ナルトキ金二圓
稅額金二圓ナルトキ金一圓
稅額金一圓ナルトキ金五十錢
稅額金五十錢ナルトキ金二十錢

礦業ニ關スル登錄

試掘權ノ設定

增區又ハ増減區ニ依ル試掘權ノ變更

相續以外ノ原因ニ依ル試掘權ノ移轉

探掘權ノ新規登錄

增區又ハ増減區ニ依ル探掘權ノ變更

第十二編 租稅 專章 第二十六章 非常特別稅法

八 取引所税 相續以外ノ原因ニ依ル採掘權ノ移轉 每一件金二十五圓

商品、有價證券 (國債及)地方債證券 賣買各約定代金高萬分ノ六 同 萬分ノ二

九 狩獵免許税

- 一 等 金二十圓
- 二 等 金二十圓
- 三 等 金五圓

十 鑛區税

- 鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢
- 鑛區二千坪毎ニ一箇年金二十錢

十一 賣場營業税

- 毎方劑一箇年ノ製造高ニ對スル定價總額三百圓未滿ノモノ 金一圓
- 同五百圓未滿ノモノ 金三圓
- 同千圓未滿ノモノ 金五圓
- 同二千圓未滿ノモノ 金七圓
- 同三千圓未滿ノモノ 金十圓
- 同五千圓未滿ノモノ 金十五圓
- 同一萬圓未滿ノモノ 金二十圓
- 同二萬圓未滿ノモノ 金三十圓
- 同三萬圓未滿ノモノ 金四十圓

十二 印紙税

- 同五萬圓未滿ノモノ 金五十五圓
- 同七萬圓未滿ノモノ 金七十圓
- 同十萬圓未滿ノモノ 金八十五圓
- 同十萬圓以上 金百圓

印紙税法第四條ニ掲ケタル證書帳簿但シ約束手形及判取帳ヲ除ク

判取帳 印紙税金一錢

約束手形 印紙税金五錢

- 金高千圓以下 印紙税金一錢
- 金高五千圓以下 印紙税金四錢
- 金高一萬圓以下 印紙税金十三錢
- 金高二萬圓以下 印紙税金二十八錢
- 金高三萬圓以下 印紙税金五十八錢
- 金高五萬圓以下 印紙税金一圓十八錢
- 金高十萬圓以下 印紙税金三圓三十八錢
- 金高十萬圓ヲ超ユルモノ 印紙税金四圓九十八錢

前項第三號株主又ハ株主及社員ノ數ハ其ノ事業年度間ノ最多數ニ依ル

第一項第十一號ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル

第三條 左ノ割合ニ依リ小切手ニ印紙税、砂金採取業者ニ砂金採取地稅、汽車、電車、汽船ノ乘客ニ通行税、織物ニ消費税ヲ課ス

一 小切手印紙税 一通毎ニ金一錢

二 砂金採取地稅

河床ニ非サルモノ

採取區域一町毎ニ一箇年金三十錢
採取區域一千坪毎ニ一箇年金三十錢

三 通行稅

二百哩又ハ二百海裡以上

金五十錢

金二十五錢

金四錢

二百哩又ハ二百海裡未滿

金四十錢

金二十錢

金三錢

百哩又ハ百海裡未滿

金二十錢

金十錢

金二錢

五十哩又ハ五十海裡未滿

金五錢

金三錢

金一錢

四 織物消費稅

價格百分ノ十五

毛織物

價格百分ノ十

毛織物以外ノ織物

通行稅ヲ賦課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分タサルモノニ在リテハ三等ノ稅額ヲ適用シニ等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等三等ノ稅額ヲ適用シ四等級以上ニ分チタルモノニ在リテハ最初ノ二等級ヲ以テ一等二等ト爲シ其ノ他ハ總テ三等ノ稅額ヲ適用ス

貸切、定期又ハ回数乘船車若ハ多人數乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ第一項第三號稅額ノ五倍トス

第四條 訴狀其ノ他民事訴訟ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 第一審ノ訴狀

財產權上ノ請求ニ係ルモノ

金五錢

金十錢

金二十錢

金三十錢

金三十錢

金五十錢

金五十錢

金二十圓

金二圓

金二圓

金三圓

金五圓

金五圓

第十二編 租稅 專章 第二十六章 非常特別稅法

同 五千圓以上八千圓ニ達スル毎ニ 金一圓
財産權上ノ請求ニ非サルモノ 金五十錢

二 控訴狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額

三 上告狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ト同額

四 支拂命令ノ申請

訴訟物ノ價額金十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ民事訴訟用印紙法及本法ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ半額ト金二十錢トノ差額
前項ノ差額ハ民事訴訟法第三百九十一條ノ規定ニ依リ訴力區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テ訴訟ニ付キ貼用スヘキ印紙ノ額ニ之ヲ通算スヘシ

五 其ノ他ノ申立又ハ申請

期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立
中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
從參加ノ申請
忌避ノ申請
和解ノ申立
費用額確定ノ申請
假執行ノ宣言ヲ求ムル申立
強制執行ノ停止又ハ續行若ハ執行處分ノ取消ノ申立

金二十錢

申立

配當要求

家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立
強制競賣又ハ強制管理ノ申立
債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

證據調ノ申立

判決ノ送達ヲ求ムル申立

執行力アル正本ヲ求ムル申立

但シ此ノ正本數通ヲ求ムルトキハ每一通ニ付

金五十錢

假差押又ハ假處分ノ申請

抗告

故障

答辯書其ノ他特ニ掲ケサル申立

金五錢

又ハ申請

左ニ掲グル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八十錢ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 裁判上代位ノ申請

二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三 裁判上ノ代位、競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告

訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規定ヲ適用セス

本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス

第五條ノ一 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左

ノ印紙ヲ増貼スヘシ
一 左ニ掲グル申立

抗告

債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

金五十錢

支辨猶豫ノ申立

金五錢

二 其ノ他ノ申立又ハ申請

破産手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

財團ノ價格金五圓マテ

金十錢

同 十圓マテ

金二十錢

同 二十圓マテ

金四十錢

同 五十圓マテ

金六十錢

同 七十五圓マテ

金六十錢

同 百圓マテ

金一圓

同 二百五十圓マテ

金一圓

同 五百圓マテ

金四圓

同 七百五十圓マテ

金四圓

同 千圓マテ

金六圓

同 二千五百圓マテ

金十圓

同 五千圓マテ

金十圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ

金二圓

前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス
商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五條ノ二 行政訴訟ノ書類ニハ其ノ正本ニ左ノ金額ノ印紙ヲ貼用スヘシ但シ裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作
ラシメタルトキハ其ノ調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

一 訴 狀

金七圓

二 故 障

金一圓

三 證據調ノ申立

金一圓

四 判決ノ送達ヲ求ムル申立

金一圓

五 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立

金四十五錢

六 從參加ノ申請

金四十五錢

七 忌避ノ申請

金四十五錢

八 費用額確定ノ申請

金四十五錢

九 答辯書其ノ他前各號ニ掲ケサル申立又ハ申請

金二十五錢

裁判費用ヲ濟済スルコトノ假免除アリタル場合ノ外前項ニ依リ印紙ヲ貼用セサル行政訴訟ノ書類ハ其ノ效ナ
キモノトス但シ印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラ
シムルコトヲ得

第五條ノ三 小切手ノ印紙税ニ付テハ印紙税法第六條、第八條、第九條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規
定ヲ適用ス

第五條ノ四 砂金採取地稅ヲ徵收スル場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一千坪トシテ計算
ス

第五條ノ五 砂金採取地稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
砂金採取業ノ許可又ハ採取地ノ變更ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル砂金採取地稅ニシテ初年ニ係ルモノハ之
ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ砂金採取地稅ハ月額ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業ノ廢止ノ年ニ係ルモノ亦同シ
第五條ノ六 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者之ヲ徵收シ一箇月毎ニ取與メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付ス
ヘシ

汽車、電車又ハ汽船營業者カ前項ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者日
リ之ヲ徵收ス

外國行ノ汽船ニ乘シ外國ニ赴ク者ニハ通行稅ヲ課セス

當該官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第五條ノ七 (釀米、及穀輸入稅ニ付テハ關稅法及關稅定率法中有稅品ニ關スル規定ヲ準用ス)

第六條 左ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス

一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品トナシテ外國ニ輸出セムトスル織物

二 製造者ノ自用ニ供スル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付
金又ハ相當印紙ヲ交付ス

第七條 毛織物ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取人ノ納付スヘシ

毛織物以外ノ織物ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ移出スル前之ニ相當印紙ヲ貼用シ税金ノ
納付ニ代フヘシ但シ移出前織物ノ價格ニ依リ之ニ相當スル税金ヲ納付シ織物ニ税金納付済ノ印ヲ受ケタル
トキハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ稅額一錢未満ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第二項ニ依ル印紙ノ貼用、消印及税金納付済ノ證印ニ關スル方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條ノ一 消費稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三箇月以内ノ期間ヲ以テ毛織物消費稅ノ徵
收ヲ猶豫ス

第八條ノ二 左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ織物ノ移出ヲ爲スコトヲ得

一 政府ノ承認ヲ得テ他ノ製造場ニ移出シ又ハ貯製場ニ藏置スル爲織物ヲ移出スルトキ

二 政府ノ承認ヲ得テ染色、捺染刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ移出スルトキ

三 質織場ヨリ質織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ

四 一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ織物ヲ移出スルトキ

五 輸出ノ目的ヲ以テ製造セル特殊ノ織物ニシテ製造場ニ於テ政府ノ免稅證印ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條ノ三 消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取ルトキハ毛織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類
及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第九條 第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ價格ヲ政府ニ
申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定
ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス
異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大
ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物以外ノ織物ヲ移出セムトスル者ハ之ニ其ノ價格
ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ但シ第七條第二項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項價格表記ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第六條第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場、稅
關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトコトヲ得ス

第十一條 織物製造者ハ第六條、第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ

於テ織物ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ自用ニ供スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ一 織物製造者ハ其ノ製造場ニ於テ織物ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得製造ノ場所ト販賣ノ場所トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ二 織物販賣者印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣セムトスルトキハ販賣者ハ價格ヲ改記シ之ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第十四條 織物ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ織物ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收稅官吏ハ織物ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り織物、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條ノ一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額八十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セズシテ織物ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スルモノトシテ消費稅ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 第八條ノ二ニ依リ移出シタル織物ヲ其ノ定メラレタル移出先ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四 第十條又ハ第十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキ

第十七條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ販賣シタルトキ

二 第十三條ノ二ニ依ラスシテ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣シタルトキ

第十七條ノ三 織物販賣者印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ所持シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

收稅官吏前項ノ犯則ヲ發見シタルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハズ販賣者ノ費用ヲ以テ其ノ織物ニ相當印紙ヲ貼用スルコトヲ得

前項ニ依ル費用ノ徵收ニハ國稅收法ノ規定ヲ準用ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 織物ノ製造者又ハ販賣者織物ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ忘リタルトキ

二 續物ニ印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ貼用又ハ消印ヲ爲ササルトキ

三 織物ニ價格ヲ表記スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ表記ヲ爲ササルトキ

四 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アル場合ハ刑法ニ依ル

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用フ

第二十條 織物ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十二條 北海道、府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地

ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣、北海道ノ區、一級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及間切島

附加税ノミヲ課スルトキ

地租 十分ノ五

段別税ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付平均金四十錢

附加税及段別税ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ五ト附加税總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ

地租 十分ノ三

段別税ノミヲ課ストキ

一段歩ニ付平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別割地租額ノ十分ノ三ト附加税總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道府縣以外ノ公共團體ハ營業税又ハ所得税百分ノ三十ヲ超過スル附加税ヲ課スルコトヲ得ス

第二條ニ依ル地租、營業税、所得税及釐金稅ノ増徴額ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

府縣費ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ其ノ金額以内ニ限り市町村ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課スルコトヲ得

明治三十六年度以前ニ起シタル負債ノ元金償還及利子仕拂ノ爲若ハ非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要シ又ハ其ノ費用ノ分賦ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課スルコトヲ得

北海道ノ宅地及海産干場ニ付テハ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課スルコトヲ得

水利ノ爲ニ費用ヲ要スル場合ニ於テ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課スルコトヲ得

附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加及段別割ヲ併課スルコトヲ得
第一項及第二項ノ制限ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附 則

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入税ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業税、所得税ニ關シテハ明治三十七年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條ノ課税制限ハ明治三十七年度ヨリ之ヲ適用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ税目又ハ税率ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ其ノ牴觸ノ部分ニ限り其ノ效力ヲ失フ

第二十四條 [削除]

第二十五條 [削除]

第二十六條 本法施行後保税倉庫ニ庫入シタル砂糖コシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ及糖蜜ニ付テハ庫

出ノ日ニ於テ行ハルル輸入税率ヲ適用ス
第二十七條 [削除]

附 則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ不動産及船舶ニ關スル登録税ニ關シテハ明治三十八年四月一日ヨリ、營業ニ關スル登録税及試掘釐金稅ニ關シテハ營業法施行ノ日ヨリ、毛織物以外ノ織物消費稅ニ關シテハ明治三十八年二月一日ヨリ、輸入税ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業税、所得稅、賣藥營業稅ニ關シテハ明治三十八年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ明治三十八年分賣藥營業稅前半年分ノ増徴額ハ本法施行後一箇月内ニ之ヲ納ムヘシ

明治三十八年分釐金稅ノ増徴額及砂金採取地稅ハ本法施行ノ月ヨリ月割ヲ以テ計算シ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

本法施行前營業條例ニ依リ營業ニ關スル出願ヲ爲シ既ニ非常特別稅法ニ依ル登録稅ノ増徴額ヲ納メタル者營業

法ニ依リ其ノ事項ニ付鐵業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ更ニ本法ニ依ル増徴額ヲ納ムルコトヲ要セス
本法施行前ヨリ織物ヲ製造又ハ販賣シ本法施行後引續キ之ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ本法施行後三十日
内ニ政府ニ申告スヘシ但シ毛織物ヲ製造スル者及自用ニ供スル毛織物以外ノ織物ノミヲ製造スル者ニ關シテハ
此ノ限ニ在ラス

前項ノ期間内ハ從前ノ製造又ハ販賣ヲ繼續スルコトヲ得

本法施行ノ際織物販賣者ノ所持スル毛織物以外ノ織物ニハ其ノ價格百分ノ十二相當スル印紙ヲ貼用スヘシ
但シ織物販賣者ハ本法施行ノ月ヨリ毎月ノ販賣高百分ノ十二相當スル金額ヲ其ノ翌月ヨリ一箇年以内ニ政府ニ
納付スルノ條件ヲ以テ印紙貼用ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項但書ニ依リ印紙免除ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ本法施行後二十日以内ニ本法施行ノ際ニ所持シタル毛織物
以外ノ織物ノ數量價額ヲ記載シ其ノ旨政府ニ申請スヘシ

本法施行ノ際織物ヲ販賣スル者ニハ本法施行後三十日以内ニ限リ第十七條ノ三ノ規定ヲ適用セス

附則第七項ニ依リ印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テハ第七條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル場合ニ於テハ其ノ織物ニ移出前税金納付済ノ證印ヲ受クヘシ
但シ小賣ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル者ハ毎月其ノ織物販賣高ヲ政府ニ申告スヘシ
附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル者ノ納ムヘキ金額ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十七章 非常特別稅法施行規則

明治三十七年四月一日 勅令第八十五號 改正 第三十七年三月八日 第一三九號第一號

除非常特別稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非常特別稅法施行規則

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自用ニ供スルモノノミヲ製造シ又ハ製造セムトス

ル者ヲ包含セス

第一條ノ二 株式會社又ハ株式合資會社カ所得稅法施行規則第三條ニ依リ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スル
場合ニ於テハ其ノ事業年度間ニ於テ最多數ナリシ時ニ於ケル株主又ハ株主及社員ノ數ヲ併セ申告スヘシ

第一條ノ三 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ一方劑毎ニ前年中ニ製造シタル賣藥ノ定價總額ヲ所轄稅務署ニ
申告スヘシ

第一條ノ四 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船ノ乘船車賃ヲ領收スルトキ之ヲ徵收スヘシ

第一條ノ五 汽車、電車又ハ汽船營業者ハ拂込書及計算書ヲ添付シ毎月十日迄前月分ノ通行稅ヲ各營業場所
在ノ金庫ニ拂込ムヘシ但シ營業者カ本店所在地所轄稅務署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂
込ムコトヲ得

官設鐵道ニ於テ通行稅ヲ金庫ニ拂込ムトキハ計算書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ
販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ織物製造場ノ圖面若ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命
シタルトキハ織物製造者ハ之ヲ提出スヘシ

第四條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ
織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告
スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ
第五條 織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅
務署ニ申告スヘシ

第六條 第二條若ハ第五條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項

ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
第九條 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ

製造場ヨリ之ヲ引取り又ハ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メ
タル場合ニ於テハ所轄稅務署ハ前項ノ承認ノ省略ヲ許可スルコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織
物ノミヲ製造スル製造場又ハ之ヲ藏置スル貯藏場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ
亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ
其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費税ノ免除ヲ受グルコトヲ得ス

第九條ノ二 消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出スル場合ニ於テ輸出港稅關ノ
検査ヲ受ケ其ノ織物又ハ其ノ物品ノ原料タル織物ニ付現金又ハ印紙ヲ以テ消費税ヲ納付シタルノ證據ヲ具シ
テ出願シタルトキハ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス但シ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ輸出スル場合ニ於テ消費
稅納付ノ證據ヲ具スルコトヲ要セス

第十條 製造者ニシテ其ノ自用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスルモノハ製造場外ニ移出セムトスル
トキ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 非常特別稅法第八條ノ二ニ依リ政府ノ承認ヲ得又ハ政府ノ免稅證印ヲ受クヘキ場合ニ於テハ所轄稅
務署ニ對シテ其ノ承認又ハ免稅證印ヲ求ムヘシ

第九條第三項ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ準用ス
第十二條 非常特別稅法第六條及第八條ノ二ノ場合ノ外製製造場ヨリ毛織物ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨製造

場所所轄稅務署ニ申告シ併セテ其ノ價格ヲ申告スヘシ

第十二條ノ二 毛織物以外ノ織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ價格ヲ表記シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用
シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ紙ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫著シ紙
片ニ價格ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコ
トヲ得

第十二條ノ三 非常特別稅法第七條第二項但書ニ依リ税金ノ納付ヲ爲サムトスル者ハ織物ノ移出前其ノ旨所轄
稅務署ニ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタ
ル切符ヲ貼附シ又ハ織物ニ納稅濟ノ證印ヲ捺捺スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ自ラ消費税金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十四條 非常特別稅法ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル
擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第十五條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命
スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ稅務署ハ直ニ消費税ヲ徵收ス
第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確定シタルトキハ所
轄稅務署ハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費税ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ
擔保物ヲ以テ税金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ有價證券ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十七條ノ二 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ニ申
出テ其ノ承認ヲ得タルトキハ代リ印紙ノ交付ヲ請求シ又ハ更ニ納稅濟ノ證印ヲ請求スルコトヲ得

第十七條ノ三 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ヲ小切レト爲シテ販賣セムトスルトキハ成ルヘク印紙貼用又ハ證印ナキ部分ヨリ之ヲ切離スヘシ但シ印紙貼用又ハ證印アル部分ヲ切離スル必要アルトキハ其ノ貼用印紙又ハ證印アル部分ヲ切取り之ヲ保存シ毎月分ヲ取廻メ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ廢棄ノ處分ヲ受クヘシ

第十八條 織物製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル種類、數量、價額引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル種類、數量、價額販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ織置場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 收稅官吏ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ララル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第二十三條 本令中稅務署ト稱スルハ臺灣ニ在リテハ廳ヲ謂フ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法第二十四條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第二條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ三ニ依ル申告ハ明治三十八年ニ限リ本令施行後十五日以内ニ之ヲ爲スヘシ
明治三十八年法律第一號附則ニ依リ申告又ハ申請ヲ爲シ若ハ税金納付濟ノ證印ヲ受クヘキ場合ニ於テハ所轄稅務署ニ對シテ之ヲ爲スヘシ

第二十八章 煙草專賣法

明治三十七年四月一日 改正 第一二號、第五〇號 法律第十 四 號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル煙草專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草專賣法

- 第一條 煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス
- 第二條 煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス
- 第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス
- 第四條 煙草耕作ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス
- 第五條 煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム
- 第六條 政府ハ毎年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス
- 第七條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ
- 第八條 相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九條 相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ届出ヘシ
- 第九條 煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス
- 煙草苗ノ讓渡及讓受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ

第十一條 政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量目又ハ葉數ヲ査定スヘシ

前項査定ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條 煙草耕作者前條ノ量目又ハ葉數ノ査定ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目又ハ葉數ノ前項決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス

第十三條 煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ第十一條ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ拔除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者其ノ決定前ニ於テ亦同シ

第十四條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ

種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ

煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第十六條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス

煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再鑑定等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト再鑑定等級トノ差ヨリ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定若ハ決定シタル量目又ハ葉數以上ノ葉煙草ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十八條第二項ノ規定ニ準シテ算定シタル金額ノ三倍以下ヲ納付セシムルコトヲ得

第十八條 煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ減作地又ハ廢作地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得
前項葉煙草ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似煙草耕作地ノ葉煙草生産額及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシ之ヲ算定ス

第十九條 煙草耕作者其ノ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ政府ハ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得

第二十條 煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、藏置場又ハ其ノ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス

政府ハ必要ト認ムルトキハ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條、第七條、第九條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十四條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開放シ若ハ之ヲ收裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十五條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

前項煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ調製シ其ノ營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ
輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ノ爲政府ハ一定ノ地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得

煙草自由倉庫及其ノ特許ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ政府ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付セシム

第二十七條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二十八條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出ヲ廢止シタルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過キ之ヲ輸出セサルトキハ其ノ使用ニ適スルモノニ限り政府之ヲ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム

前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ賠償金ヲ交付ス但シ其ノ賠償金ハ第二十五條ニ依ル賣渡價格ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラレタル葉煙草並現在葉煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル葉煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第二十五條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ三倍以下ヲ納付セシム

第三十條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラレタル製造煙草並現在製造煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル製造煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第二十三條ノ賣渡價格ト第二十五條ノ賣渡價格トノ差額ニ相當スル金額ノ二倍以下ヲ納付セシム

第三十一條 政府ハ標本ニ供スルモノニ限り葉煙草ヲ交付シ又ハ煙草ノ輸入ヲ許可スルコトヲ得
標本ニ供スル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケ標本トシテ他ニ讓渡シ又ハ試驗ノ用ニ供シ又ハ廢棄スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス

第三十二條 健康上若ハ習慣上缺クヘカラサル製造煙草ハ自用ニ供スルモノニ限り自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸入スルコトヲ得

第三十三條 輸出ノ爲買受ケタル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ若ハ讓受ケルコトヲ得ス

前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ之ヲ處分ス

第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條 煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條 煙草耕作者、試作者、又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ耕作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ検査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得

第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條 政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ圖リ若ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格

ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓以下ルコトヲ得ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到着スル迄ノ諸費及輸入税ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四十一條ノ二 第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス許可ヲ受ケスシテ試作シタル者亦同シ

第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類ノ煙草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタルトキハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ藏置シタルトキハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄スヘキ者其ノ葉煙草ヲ收穫シ又ハ種子ヲ採取シタルトキハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ沒收ス

第四十六條 天災其ノ他避クヘカシサル事變ニ依ルニ非スシテ第二十條第一項ニ違反シ又ハ政府ノ指定シタル通路若ハ時間ニ依ラスシテ葉煙草ヲ運送シタル者ハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隠蔽シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ
情ヲ知リテ葉煙草隠蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者ハ五百圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 煙草輸出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ一圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條 第三十三條ニ違反シタル者ハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條 許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者、試作者ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條 第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ煙草賣捌人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十八條 私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ備俾ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品並其原料、製造

造器具機械及紙卷ハ之ヲ沒收ス

第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第六十二條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ避忌シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者販賣者、若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰金ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第六十五條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人、戶主、家族同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ義務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得又

第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス第六十七條 間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項刻煙草ノ製造及其ノ原料ニ供スル葉煙草ノ賣買ニ關シテハ明治三十八年三月三十一日迄本法ノ規定ヲ適用セス仍煙草專賣法ヲ適用ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依ル煙草耕作ト看做ス

第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年六月三十日ニ現在スル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造専用ノモノヲ除ク

二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造専用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草

第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第七十二條 明治三十七年六月三十日ニ現在スル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ葉煙草賣買業者ニ限リ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スルコトヲ得

但シ外國產葉煙草ニ限リ明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十三條 本法發布ノ際ニ現在スル煙草製造用ノ建物、其ノ敷地及其ノ製造場備附ノ煙草製造用ノ器具機械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

政府ハ本法發布ノ後煙草製造業者ノ營業場ニ就キ前項ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ調成ス

徵收目錄ハ本法發布後六十日以内ニ之ヲ所有者ニ告知ス

前項ノ告知後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第七十四條 煙草製造業者ノ所有ニ係ル煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件並其ノ現ニ使用スル煙草製造及裝置用器具機械ニシテ第七十條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限リ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限ル

前項ニ依リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量並器具機械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ金額五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付ス但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收又ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ増給ス

政府ハ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス但シ煙草製造業ヲ兼ネタル葉煙草賣買業者カ自己ノ製造用ニ供シタル葉煙草ノ代金ハ本項ノ煙草賣渡代金中ニ算入スルコトヲ得サルモノトス

煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第一項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金九百十萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第二項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金二百萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第一項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依ル

第二項及第二項ニ煙草製造業者トアルハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル煙草製造業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第二項ニ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者トアルハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ

製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第七十六條 第七十五條第一項及第二項ノ賣渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ政府之ヲ決定ス

第七十七條 第七十條、第七十三條ノ補償價格及第七十二條、第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議整ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日以内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ裁定ス

鑑定人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 第七十條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十七年七月五日迄ニ、同條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件設置ニ關シテハ第三十六條及第六十條ヲ適用ス

前項ニ依リ申告ヲ爲シタル物件ノ設置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第三十六條ヲ適用セズ

第七十九條 第七十條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ設置ニ關シテハ第五十六條ノ例ニ依リ處分ス

第八十條 第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 第七十五條ニ依リ交付金ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ在リテハ明治四十年十二月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草製造業者ノ明治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻煙草ハ本法ノ規定ニ依ラス之ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得

政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草ニ包裹ヲ施サシメ竝一定ノ證票ヲ貼附セシムルコトヲ得

前項ニ依ル命令ニ違反シ包裹ヲ施サス又ハ證票ヲ貼附セサル製造煙草ニ關シテハ第三十四條及第五十七條ヲ準用ス

第八十三條 煙草製造業者又ハ製造煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十七年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ
刻煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草ノ種類數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十四條 本法施行後政府ノ賣渡ササル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治三十七年七月以後毎月末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十五條 第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス

第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス

本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ヌ犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ依ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セス

明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス

第七十條、第七十三條ノ補償金及第七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付

スルコトアルヘシ

國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス

國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス

但シ第七十五條第二項ニ依リ交付スル國庫債券ニ限リ發行ノ年ヨリ十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第十三編 産業

第一章 府縣農事試驗場規程

明治三十二年八月二日
農商務省令第二十號

改正

第三六年
第六號

府縣農事試驗場規程左ノ通相定ム

府縣農事試驗場規程

第一條 本規程ニ於テ府縣農事試驗場ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル農事試驗場ヲ謂フ
第二條 府縣農事試驗場ハ一府縣一箇所ヲ限り設立スルコトヲ得但分場ヲ設クルコトヲ妨ケス
第三條 府縣農事試驗場ハ其府縣内ノ農産ノ増殖改良ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フ府縣農事試驗場ハ毎年一回以上試驗ノ成績ニ關スル報告書ヲ發行スルコトヲ要ス
第四條 府縣農事試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

- 一 巡回講話短期講習
- 二 種苗、蠶種、種禽、種豚等ノ配付
- 三 土壤、肥料、農産物等ノ分析
- 四 種苗、肥料等ノ鑑定
- 五 模範農事

第五條 府縣農事試驗場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス
第六條 府縣農事試驗場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

- 一 名稱及ヒ位置
- 二 業務ノ項目
- 三 試驗用地ノ種類及ヒ其面積

四 建物ノ種類及ヒ坪數

五 職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額

六 收支豫算書

第七條 府縣農事試驗場ノ收支豫算書ハ每會計年度前三十日ヲ限り地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣農事試驗場ニ付テハ此限ニ在ラス前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第八條 府縣農事試驗場前年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ毎年五月限り之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス府縣農事試驗場ノ試驗成績報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第九條 府縣農事試驗場又ハ其分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

第十條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本規程施行前ニ設立シタル府縣農事試驗場ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マデニ第

六條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第二章 府縣農事講習所規程

明治三十二年八月一日
農商務省令第二十一號

府縣農事講習所規程左ノ通相定ム

府縣農事講習所規程

第一條 本規程ニ於テ府縣農事講習所ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル農事講習所ヲ謂フ

第二條 府縣農事講習所ハ一府縣一箇所ヲ限り設立スルコトヲ得但分所ヲ設クルコトヲ妨ケス

第三條 府縣農事講習所ハ農業ニ從事スル者ヲシテ農事ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣農事講習所ハ丈量、氣象、物理、化學、博物等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ府縣農事講習所ニ於テ獸醫又ハ蹄鐵ニ關スル講習ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 地方長官必要ト認ムルトキハ府縣農事講習所ノ職員ヲシテ農事ニ關スル巡回講話ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 府縣農事講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

第七條 府縣農事講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分所ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一 名稱及位置

二 講習所規則

三 實習用地ノ種類、及ヒ其面積

四 建物ノ種類及ヒ其坪數

五 職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額

六 收支豫算書

第八條 府縣農事講習所ノ收支豫算書ハ每會計年度前三十日ヲ限り地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣農事講習所ニ付テハ此限ニ在ラス前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第九條 府縣農事講習所前年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ毎年五月限之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十條 府縣農事講習所又ハ其分所ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十一條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 明治二十七年八月農商務省令第八號農事講習所規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第十三條 本規程施行前ニ設立シタル府縣農事講習所ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第七條ニ掲ケル事項ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第三章 農會法

明治三十二年六月
 法律第百三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農會法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農會法

- 第一條 農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲メニ設立スルモノトス
- 第二條 農會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 農商務大臣ハ其ノ定ムル所ノ條件ヲ具備スル農會ニ補助金ヲ交付スルコトヲ得
- 第四條 農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第五條 農會補助ノ爲メ國庫ヨリ支出スル金額ハ一箇年拾五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第六條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

附則

第四章 農會令

明治三十八年十月二十八日
 勅令第百二十五號

朕農會令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農會令

- 第一條 農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス
- 本令ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ掲ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條 農會ハ法人トス

農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 市町村農會ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル但シ東京府農會ニ在リテハ小笠原島伊豆七島ヲ除ク

特別ノ事由アルトキハ市町村農會ノ區域ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市農會ニ在リテハ地方長官町村農會ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ但シ市ノ區域一部ヲ加ヘテ町村農會ノ區域ト爲サルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ト郡トノ區域ニ涉リテ市町村農會ノ區域ノ設定アリタルトキハ第一項郡農會ノ區域モ亦自ラ之ニ伴ヒ變更アリタルモノトス

北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ノ區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

第四條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ於テ國及公共團體ヲ除クノ外耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域内ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域内ノ郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 市町村農會ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 設立者ノ數第四條ノ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ナルコト
- 二 其ノ區域内ニ於テ設立者ノ占有又ハ所有スル耕地及牧場ノ面積カ私用ニ供スル耕地及牧場ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス

第六條 郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ町村總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ郡市總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス
 北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ定ム

第七條 農會成立シタルトキハ第四條ニ依リ當該農會ヲ組織スヘキ者ハ總テ其ノ農會ニ加入シタルモノト看做ス

第八條 農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱並北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ名稱
- 二 事業
- 三 事務所
- 四 役員ノ職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
- 五 會議ニ關スル規定
- 六 會費ノ分賦收入ニ關スル規定
- 七 財產ニ關スル規定
- 八 處務及會計ニ關スル規定
- 九 會則ノ變更ニ關スル規定
- 十 解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ

第十條 總會ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ其ノ農會ヲ組織スル農會ノ代表者ハ一農會ニ付一名トス

農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ副代表者一名ヲ置クコトヲ得副代表者ハ代表者事故アルトキ之ヲ代理ス

第十一條 代表者及副代表者ハ總會ニ於テ役員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ役員中ヨリ選舉スルコト能ハサル場合ニ於テハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ其ノ農會ヲ組織スル代表者中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

名譽會員中ヨリ選舉セラレタル役員ハ前項ノ代表者及副代表者タルコトヲ得ス

代表者及副代表者ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三箇年トス但シ補闕ノ爲選舉セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 代表者及副代表者ハ其ノ任期滿了ノ場合ト雖後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第十三條 總會ノ決議カ法令若ハ會則ニ違背シ、公益ヲ害シ又ハ事業ノ執行上不適當ナリト認ムルトキハ會長ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

第十四條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スル暇ナシト認ムルトキハ會長ハ專決處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘシ

第十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ重要ノ事項ニ非サルモノハ會則ノ定ムル所ニ從ヒ會長ニ於テ書面ニ依リ會員又ハ代表ノ意見ヲ徵シ總會ノ招集ニ代フルコトヲ得

第十六條 農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得

名譽會員ハ議決權ヲ有セス

第十七條 農會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

- 會長 一名
- 副會長 一名

前項ノ外役員トシテ評議員及幹事ヲ置クコトヲ得

評議員及幹事ノ員數ハ會則ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ評議員ハ市町村農會ニ在リテハ七名、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ五名、幹事ハ二名ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 會長、副會長及評議員ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ但シ會長及副會長ハ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ妨ケス

幹事ハ市町村農會ニ在リテハ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス

第十九條 會長ハ會務ヲ總理シ農會ヲ代表ス

副會長ハ會長ノ事務ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ及會務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌ル

第二十條 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

市町村農會ノ會則ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

市町村ハ必要ト認ムルトキハ監督官廳ノ許可ヲ得テ市町村農會ニ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十二條 農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ議決ヲ經テ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十三條 農會ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算、財産目錄及會務ノ狀況ヲ會員又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第二十四條 農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十五條 農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第二十六條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ狀況又ハ書類ヲ検査シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若クハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 農會ノ決議又ハ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ北會道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消
二 役員ノ解職
三 事業ノ停止
四 解散

一 決議ノ取消
二 役員ノ解職
三 事業ノ停止
四 解散

解職セラレタル役員ハ二箇年間役員タルコトヲ得ス

第二十八條 農會ニ於テ解散ヲ議決シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第二十九條 行政區劃ノ變更アリタルトキハ農會ノ區域モ亦自ラ變更アリタルモノトス

農會ノ屬スル地方區域他ニ合併又ハ分割セラレタルトキハ其ノ農會ハ解散ス

第三十條 前條ノ場合ニ於テ新地方區域ニ既設ノ農會存立セサルトキ舊農會ノ會員タリシ者並其ノ占有若ハ所有スル耕地及牧場ノ面積又ハ舊農會ヲ組織セシ農會ノ數第五條若ハ第六條ノ條件ニ該當スルトキハ直ニ新地方區域ニ依ル農會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ行政廳ニ於テ假ニ會則ヲ定メ假役員及假代表者ヲ選任シテ役員及代表者ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第三十一條 依リ設立シタル農會ハ農會ノ議決シ設立ノ時ヨリ二箇月以内ニ行政廳ノ認可ヲ申請スヘシ

第三十二條 第三條第二項ノ場合ニ於テ郡長又ハ地方長官ノ許可ヲ經テ設立シタル農會ニシテ特ノ事由消滅シタルトキハ郡長又ハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ

農會ハ前項ノ取消ニ因リテ解散ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存続スルモノト看做ス

第三十四條 農會解散シタルトキハ會長及副會長其ノ清算人ト爲ル但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ノ決議ヲ以テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十四條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メテ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ

清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十五條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算及財産處分方法ノ變更又ハ清算人ノ解職ヲ命スルコトヲ得
第三十六條 清算ヲ了シタルトキハ清算人ハ農會ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添
ヘ其ノ旨ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第三十七條 第八條、第九條第二項、第二十二條、第二十三條、第二十八條、第三十條第二項及第三項、第三
十三條第二項、第三十四條第一項、第三十五條及第三十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長、市農會及
郡農會ニ在リテハ地方長官、北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス

附則

第三十八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ既設ノ農會ニシテ第五條又ハ第六條ノ條件ヲ具備スルニ至ラ
サルモノニ關シテハ第七條ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 既設ノ農會ハ明治三十九年二月末迄ニ本令ニ依リ總會ヲ開クヘシ其ノ總會ヲ開クニ至ル迄尙從前
ノ規定ヲ適用ス

前項ノ總會ニ於テハ會則ノ變更ヲ議決シ其ノ決議シタル會則ニ依リ直ニ代表者現ニ代表者ニシテ役員タル者
ニ代ハルヘキ役員並會則ニ於テ評議員及副代表者ヲ置キタルモノニ在リテハ評議員及副代表者ヲ選舉スヘシ
現ニ代表者タル者及代表者ニシテ役員タル者ノ任期ハ新任者ノ就職スル日迄トス

第五章 農會令施行規則

明治三十一年十一月六日
農商務省令第二十四號

明治三十三年農商務省令第三號農會令施行規則左ノ通改正ス

農會令施行規則

第一條 農會設立ノ許可申請書ニハ農會令第五條又ハ第六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添
付スヘシ

第二條 農會設立ノ許可アリタルトキハ遲滞ナク經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ行政廳ノ認可ヲ申請シ
且役員代表者及副代表者ヲ置キタルモノニ在リテハ副代表者ヲ選舉スヘシ農會令第三十條第三項ノ規定ニ依
リ會則ノ認可アリタルトキ亦同シ

第三條 經費ノ豫算及分賦收入ノ方法又ハ會則ノ變更認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附
スヘシ

第四條 農會ニ於テ會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ其ノ都度行政廳ニ届出ツヘシ之
ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 役員又ハ精算人ノ選任又ハ解任アリタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第六條 市町村農會ノ會員ハ代理人ニ依リ議決權ヲ行フコトヲ得但シ會員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第七條 農會令第二十六條又ハ第二十七條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲シタルトキハ郡長ハ地方長官
ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ其ノ事由ヲ具シテ遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

第八條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ、
農會ノ區域ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ行政廳ハ之ヲ告示スヘシ第十條ニ依リ届出ヲ受ケタルトキ亦同
シ

第十條 既設農會農會令第五條又ハ第六條ノ條件ヲ具備スルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シテ遲滞ナク其ノ旨
ヲ行政廳ニ届出ツヘシ其ノ條件ヲ具備スルニ至リタルトキ亦同シ

第十一條 前條ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 農會令中郡トアルハ島司ヲ置キタル島嶼、市トアルハ北海道沖繩縣ノ區、町村トアルハ町村組合及
町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スヘキ地ヲ包含ス

農會令及本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島中島司ヲ置カサル島嶼ニ於テハ東京府知事、北海
道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第十三條 農會ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第六章 農會補助金交付規則

明治三十三年三月十日 改正 三八年
農商務省令第二號 第二五號

農會補助金交付規則左ノ通相定ム

農會補助金交付規則

- 第一條 明治三十二年法律第百三號農會法ニ規定セル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス
- 第二條 補助金ハ北海道農會及ヒ府縣農會ニ之ヲ交付ス但シ農商務大臣必要ト認ムルトキハ府縣農會ニ加入ヲ要セサル郡農會ニ之ヲ交付スルコトヲ得
- 第三條 補助金ノ交付ヲ受ケタル北海道農會又ハ府縣農會ハ必要ナリト認ムルトキハ其農會ヲ組織スル農會ニ補助ヲ支給スルコトヲ得
- 第四條 農會カ補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ二月末日迄ニ地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス
 - 一 補助ヲ受ケムトスル年度ノ事業方法書
 - 二 申請ノ理由ニ記載シタル書面
- 郡農會ニ在リテハ前項書類ノ外其ノ農會ノ收支豫算書及財産目錄ヲ添付スルコトヲ要ス
- 第五條 補助金ハ月割ヲ以テ計算シ毎年四月及ヒ十月ニ各半年分ヲ交付ス
- 第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル農會ハ前年度ノ經費ノ決算及ヒ會務ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ調製シ六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス
- 第七條 農會カ其事業ヲ停止シタルトキハ農商務大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得
- 第八條 農會カ解散シタルトキハ農商務大臣ハ既ニ交付シタル補助金ヲ還納セシムルコトヲ得

附則

- 第九條 本則ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十條 明治三十三年度ノ補助金ハ第四條ノ申請期限及ヒ第五條ノ交付期月ニ拘ハラス之ヲ交付ス

第七章 害蟲驅除豫防法

明治二十九年三月二十五日 改正 三五年
法律第十七號 第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル害蟲驅除豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

害蟲驅除豫防法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ
- 第二條 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム
認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス
- 第四條 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得
- 第五條 地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得
夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得
夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ標準ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條 地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈秣、雜草ヲ投棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條 蟲類以外ノ動物又ハ微菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣 區間切島及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第八章 害蟲驅除豫防法取扱手續

明治二十九年三月二十八日 農商務省訓令第六號

改正 三三年 第八號

害蟲驅除豫防法取扱手續左ノ通相定ム

害蟲驅除豫防法取扱手續

第一條 害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱、方言

二 主ナル被害農作物ノ種類

三 驅除豫防ノ方法

害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第二條 害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ニ報告スヘシ

第三條 害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條 害蟲隣接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條 二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條 害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條 害蟲發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條 害蟲蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリテ市町村費ヲ以テ之ヲ驅除豫防ヲ行フトキハ其ノ都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

一 害蟲ノ種類

二 郡市町村名

三 被害農作物ノ種類及被害見積段別
四 被害ノ狀況

第九條 毎年度ニ於テ市町村設テ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

害蟲驅除豫防報告様式
(各害蟲ニ付區分スヘシ)

郡市名		被害町 村ノ數	同上農作物ノ種類	同上見積段別	此平年 收穫高	被害ニ付 見積減收 高	驅除豫防 ニ係ル市 町村數	同上夫 役ノ數	同上郡費 補助額	同上府縣 補助額 (地方稅)
何	郡									
何	市									
計										

第九章 桑樹霜害豫防ニ關スル訓諭
明治三十三年二月十七日
農商務省訓令第七號

桑樹ノ被害中最モ恐ルヘキモノハ霜害ニシテ一朝ニシテ幾多ノ桑樹ヲ擧ケテ荒涼ニ歸セシメ其慘狀實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ然レトモ豫メ警戒ヲ加ヘ防備其宜シキニ適セハ之カ慘害ヲ未然ニ救済スルコト敢テ難キニアラス(又蠶蛆ハ蠶ニ寄生シテ蠶兒ヲ斃シ蠶繭ヲ破リ蠶種業者ニ寡カシサル損害ヲ加フルモノニシテ近來益々蔓延シ猖獗ヲ逞フスルノ傾向アリ是レ實ニ蠶種業上ニ於ケル一大憂患ナリトス)依テ桑園所有者(又ハ蠶)絲業者ヲ

シテ適當ノ方法ヲ設ケ右等害毒ノ豫防驅除ニ從事セシムヘシ

第十章 肥料取締法
明治四十一年四月十一日
法律第五十一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル肥料取締法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

肥料取締法

- 第一條 本法ニ於テ肥料ト稱スルハ植物ノ營養ニ供用スル物料ヲ謂フ
- 第二條 肥料ノ製造、輸入、移入又ハ賣買ヲ營業ト爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ
肥料ノ調合又ハ製造業ニ伴フ肥料ト爲ルヘキ副産物ノ産出ハ之ヲ肥料ノ製造ト看做ス
前項ノ製造業及副産物ハ主務大臣之ヲ指定ス
- 第三條 前條第一項ノ免許願書ニハ製造者ニ在リテハ製造場ノ位置、製造及藏置ニ關スル設備、肥料ノ名稱及製造方法ヲ輸入者移入者又ハ賣買者ニ在リテハ肥料ノ名稱及營業所ノ位置ヲ記載スヘシ
前項ニ依リ願書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 肥料營業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ肥料ニ保證票ヲ添附スヘシ
- 第五條 當該官吏ハ肥料營業者運送業者又ハ倉庫業者ノ店舗、倉庫、工場、船車等ニ臨檢シ物品及帳簿其ノ他ノ書類ニ就キ檢査ヲ爲シ必要ナル分量ニ限り無償ニテ肥料又ハ製造原料ヲ收去スルコトヲ得
當該官吏臨檢ノ際肥料ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス
- 第六條 肥料營業ノ免許ヲ受ケタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ免許ノ日ヨリ一年以内ニ開業セス又ハ一年以上其ノ營業ヲ休止シタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得
- 第七條 肥料營業者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ公益上必要ト認ムルトキハ

地方長官ハ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ營業者ニ對シ三年ヲ超過セサル期間肥料營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ禁スル
コトヲ得

第八條 植物ノ營養ニ供用スル物料ニシテ地方長官ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタルモノハ之ヲ他ノ用
途ニ供スル爲製造、輸入、移入又ハ賣買スル場合ニ限り本法ヲ適用セス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料及原料ハ刑法第十九條ノ物ニ非サル場
合ト雖之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 詐欺ノ行爲ヲ以テ免許ヲ受ケタル者
- 二 肥料ヲ偽造シ又ハ人ヲ欺罔スルノ目的ヲ以テ肥料ニ他物ヲ混和シタル營業者
- 三 偽造シ又ハ人ヲ欺罔スル目的ヲ以テ他物ヲ混和シタル肥料ヲ輸入、移入又ハ授受シタル營業者
- 四 肥料ニ虛偽ノ保證票ヲ添附シタル營業者又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ他ノ肥料
ニ使用シタル營業者
- 五 虛偽ノ保證票ヲ添附シタル肥料又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ使用シタル肥料ヲ
輸入移入又ハ授受シタル營業者

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ其ノ肥
料及原料カ刑法第十九條ノ物ニ非サルトキト雖之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 免許ヲ受ケスシテ肥料營業ヲ爲シタル者
 - 二 第七條ニ依ル命令ニ違反シタル者
 - 三 免許又ハ認可ヲ受ケサル製造方法ニ依リ肥料ヲ製造シタル營業者
 - 四 免許又ハ認可ヲ受ケサル肥料ヲ製造輸入移入又ハ賣買シタル營業者
 - 五 認可ヲ受ケスシテ製造場ノ位置又ハ製造若ハ藏置ニ關スル設備ヲ變更シタル營業者
- 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第四條ニ依ル保證票ヲ添附セサル營業者

二 第五條ニ依ル處分ヲ拒ミタル者

第十二條 肥料營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ
適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 肥料營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又
ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ
得ス

第十四條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前ニ於ケル肥料ノ製造販賣又ハ販賣ノ免許ノ效力ハ明治四十一年十二月三十一日限トス

第十一章 肥料取締法施行規則

明治三十四年五月二十一日 改正 三十四年三十九年
農商務省令第五號 第一〇號第二四號

肥料取締法施行規則

第一條 肥料ノ製造販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ主タル販賣所在地ノ地方長
官(東京府ハ警視廳以下依之)ニ差出スヘシ

- 一 製造場及ヒ販賣所ノ位置
- 二 肥料ノ名稱
- 三 原料ノ種類

四 肥料ノ製造方法

肥料ノ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ販賣所ノ位置及ヒ肥料ノ名稱ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前二項ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ行商ヲ爲サムトスルトキハ行商鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ但シ雇人其他ノ従業者ヲシテ行商ヲ爲サシムル場合ニ於テハ各之ヲ携帯セシムヘシ

免許ヲ受ケタル者ハ免許ノ日ヨリ二週間内ニ第一項及第二項ニ掲ケタル事項ヲ他ノ各販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第一條ノ二 前條第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ主タル販賣所所在地ノ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其認可ノ日ヨリ二週間内ニ其旨ヲ他ノ各販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者其氏名、住所ヲ變更シ又ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ二週間内ニ其旨ヲ各販賣所所在地地方長官ニ届出ヘシ相續ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三條 左記ノ肥料並第四條ニ依リ地方長官ノ指定シタル肥料ヲ製造販賣シ又ハ輸入販賣スル者ハ保證票ヲ肥料ノ各容器又ハ各個ノ外部ニ附スヘシ

- 一 過燐酸石灰、重過燐酸石灰、沈澱燐酸石灰、硝酸鹽類「アンモニア」鹽類、加里鹽類、其ノ他理化學的方法ニ依リ製造シタル肥料
 - 二 骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、乾血「トーマス」燐肥及特ニ粉碎シタル肥料
 - 三 菜種油粕、綿實油粕、胡麻油粕、荳油及落花生油粕
 - 四 二種以上ノ肥料ヲ調合シテ製造シタル肥料
- 第三條ノ二 保證票ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 肥料ノ名稱
 - 二 肥料百分中ノ主成分量

三 營業者ノ氏名住所營業種別

前項第二號ノ主成分量ハ窒素ニ在リテハ全窒素及硝酸性又ハ「アンモニア」性窒素ノ量トシ燐酸ニ在リテハ全燐酸水ニ溶解スル燐酸及枸橼酸「アンモニア」ニ溶解スル燐酸ノ量トス

保證票ニハ第一項ニ規定シタル事項ノ外他ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス但シ商標及商號ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條ノ三 前二條ノ規定ハ容器ヲ變更シ又ハ改造シテ肥料ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス保證票喪失シ又ハ著シク毀損シタル場合亦同シ

第四條 第三條ニ掲ケサル肥料ト雖モ保證票ヲ附セシムルノ必要アリト認めタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ指定スルコトヲ得

第五條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ各販賣所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ製造シ讓受ケ又ハ讓渡ス毎ニ其ノ名稱數量、價額、年月日及相手方ノ氏名住所ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ

第六條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ毎年一月三十一日迄ニ各販賣所ニ於テ前年中ニ販賣シタル肥料ノ名稱別ノ數量及價額ヲ其ノ販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ届出ハ肥料ヲ製造又ハ輸入シテ販賣スル者ニ在リテハ其ノ製造又ハ輸入ニ係ルモノト否トヲ區分シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 製造販賣者、販賣者其ノ營業ヲ廢止スルトキハ第二條ノ届出ト同時ニ第一項ノ事項ヲ届出ヘシ

第八條 検査ノ爲メ必要ナル肥料又ハ其ノ原料ヲ採取セントスルトキハ製造販賣者又ハ販賣者ノ立會ヲ以テ爲スヘシ

採取シタル肥料又ハ其ノ原料ハ之ヲ容器ニ密封シ之ニ肥料ノ名稱、製造販賣者又ハ販賣者ノ氏名、採取ノ年月日及ヒ場所ヲ記載シ官吏及ヒ立會人之ニ記名封印スヘシ

第九條 検査ノ爲メ採取スヘキ肥料ノ總量ハ一種ニ付キ一貫以下トス

第十條 肥料ノ検査ニ從事スル官吏ハ何時ニテモ第五條ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第九條ノ二 地方長官必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ肥料ノ製造販賣又ハ販賣ノ免許、肥料ノ檢査其他ノ事務ニ關スル手續ヲ定ムルコトヲ得

第十條 第一條第三項、第四項、第一條ノ二、第二條、第三條、第三條ノ二、第三條ノ三、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 保證票ニハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ナルコトヲ知テ之ヲ他ノ肥料ニ使用シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十二條 本則ハ肥料取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 肥料取締法施行前ヨリ肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣スル者其營業ヲ繼續セントスルトキハ其施行ノ後二週間内ニ本則第一條ノ願書ヲ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ肥料取締法施行ノ當時所有スル肥料ノ種類別數量ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第十二章 産牛馬組合法

明治三十三年二月二十六日
法律第二十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル産牛馬組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

産牛馬組合法

第一條 牛又ハ馬ノ生産ニ従事スル者ハ本法ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 組合ハ牛馬ノ改良及組合員ノ共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 組合ハ郡市以上ノ區域ニ依リ其ノ地區ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ牛ノ生産ニ従事スル者及馬ノ生産ニ従事スル者相合シテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各別ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第三條但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ認可ヲ與フヘシ

第五條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地方又ハ地區ヲ指定シテ組合ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第六條 監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ組合ヲシテ種牛馬ノ供給若ハ牛馬ノ系統登錄ヲ爲サシメ又ハ種場ヲ設ケシムルコトヲ得

第七條 本法ニ規定ナキモノニ付テハ重要輸出品同業組合法第四條但書ヲ除クノ外之ヲ本法ニ準用ス但シ同法第六條乃至第八條、第十一條及第十六條農商務大臣ノ職務ハ地方長官之ヲ行ヒ第九條第十三條及第十五條農商務大臣ノ職務ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附則

第八條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 重要輸出品同業組合法ノ規定ニ依リ設置シタル産牛馬組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第十條 本法施行以前ニ地方長官ノ認可ヲ經テ設置シタル産牛馬組合ニシテ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第十三章 産牛馬組合法施行規則

明治三十三年五月二日
農商務省令第九號

産牛馬組合法施行規則左ノ通相定ム

産牛馬組合法施行規則

第一條 産牛馬組合ハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外重要物産同業組合法施行規則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 組合ノ名稱ニハ其事業ノ種類ヲ示シ且之ニ組合ナル文字ヲ附スヘシ

第三條 地方長官組合又ハ聯合會ノ設置ヲ認可シタルトキハ定款及ヒ報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條 重要物産同業組合法施行規則第八條、第十二條並ニ第十七條ノ申請及屆書ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘ

附則

第五條 本則ハ產牛馬組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四章 水産組合規則

明治三十五年五月十七日
農商務省令第五號

水産組合規則左ノ通相定ム

水産組合規則

第一條 本則ニ於テ水産組合又ハ水産組合聯合會ト稱スルハ漁業法第二十二條ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ヲ謂フ

第二條 組合及聯合會ニハ漁業法及本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外重要物産同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文句ヲ附スヘシ
水産組合又ハ水産組合聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス但シ外國領海水産組合法ニ依ル場合又ハ聯合會ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合又ハ聯合會ハ漁業權ヲ享有行使スルコトヲ得ス

第五條 組合又ハ聯合會ノ地區一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選任、經費ノ豫算並徵收法及解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ

地方長官前項ノ組合又ハ聯合會ノ設置、定款ノ變更及解散ノ認可ヲ與ヘントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

地方長官役員ノ選任並經費ノ豫算及徵收法ヲ認可シタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物産同業組合法第十四條及第十五條ノ處分ハ農商務大臣

ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算又ハ業務成績ノ報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ノ届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

附則

第八條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十九年農商務省令第七號漁業組合準則ハ之ヲ廢止ス

第九條 本則施行以前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ漁業法及本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本則ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ認可ヲ管轄行政官廳ニ申請スヘシ

第十五章 特許法

明治三十二年三月二日
法律第三十六號 改正 三十五年
第三號

特許法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル特許法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許法

第一條 工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受ケルコトヲ得

物品ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り其ノ發明ノ物品ヲ製作、使用販賣、若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム

方法ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及フモノトス

第十三編 産業 第十五章 特許法

。第二條 左ニ掲グル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得ス

一 飲食物、嗜好物

二 醫藥又ハ其ノ調合法

三 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

四 特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用キテラタルモノ但シ試験ノ爲ニ二年以内公ニ知シラタルモノハ此ノ限ニアラス

。第三條 特許ノ年限ハ十五年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第四條 特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第六條 特許ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ特許證主ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國内ニ住居ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第七條 特許局長ハ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第八條 特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登録ヲ受クヘシ

代理業者ノ登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 前條ニ依リ登録ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ得

第十條 特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル期間内又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲ササルト

キハ其ノ出願又ハ請求ハ無効トス

。第十一條 特許ヲ受ケントスル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ雛形若ハ見本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 特許ヲ出願シタルトキハ特許局審査官其ノ發明ヲ審査ス

第十三條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ下付ス

特許證ニハ特許局長之ニ署名シ明細書及必要ノ圖面ヲ添付ス

第十四條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者條約ニ定メタル期間内ニ同一發明ニ付特許ヲ出願シタルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十五條 政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシテ他日其ノ物品ニ付發明ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ特許ヲ出願シタル者ニ限り最初届出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル特許出願ノ期間ハ帝國内ニ於テモ有效トス

第十六條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノニ係ル發明ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ主務官廳ヨリ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘキモノトス

第十七條 他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル者特許ノ査定ヲ得タルトキハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ承諾ヲ受クヘシ

發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ特許局長ニ申告スヘシ特許局長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明ニ對シ特許ヲ與フルコトヲ得但シ原特許證主ニ對シ特許局長ノ相當ト認

ムル報酬ヲ仕拂フニ非サレハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス
第十八條 前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ第十六條ノ場合ニ於テハ之カ爲
處分ヲ停止セス

第十九條 特許證主ハ自己ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加特許ヲ受ケルコトヲ得
追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス

第二十條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其ノ特許ヲ無効トス

- 一 第一條及第二條ニ違反シタルモノ
- 二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
- 三 發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ

第二十一條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ出願人ニ送付スヘ
シ

第二十二條 審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタ
ルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十三條 前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審
査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ
審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徵シ審査官ヲシテ
發明完成ノ前後ヲ審査セシメ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十五條 前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其ノ特許年限ハ前特許登
録ノ日ヨリ起算ス

第二十六條 特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ改訂明細書若ハ圖面ヲ添ヘ特

許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキ亦
同シ但シ發明ノ要部變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 前條ノ出願アリタルトキハ審査官之ヲ審査ス

前項ノ場合ニ於テ審査官ノ査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ審判
ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條ノ査定ニ不服アル者亦前項ニ同シ

第二十九條 二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若ハ方法ト撞著スルコトヲ發
見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審
判ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局長ハ當事者ノ申立ニ因リ證據調ヲ
爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特許局ニ於テ審判スヘキ事件ハ審判官三人若ハ五人ヲ以テ之ヲ審判ス其ノ三人若ハ五人中ノ一人
ヲ審判長トス

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第三十三條 審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スヘキ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス
特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ正副二通ノ
答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコ
トヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條 請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ辯論期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不審ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限り審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス
第三十七條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ付テモ亦同シ

前二項ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條及民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日付ヨリ三年ヲ經ルモ帝國内ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セサル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモノヲ拒絕シタルトキ

二 特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ

三 特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第三十九條 特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ

前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ増スモノトス

特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時ニ金二十圓ヲ納ムヘシ

第四十條 特許料ハ毎年一分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

前納セシ特許料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第四十一條 特許證主ハ其ノ特許品ニ特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面ノ調製又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十四條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定、審決若ハ決定ニ至ラサル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知リテ偽造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ前項ニ同シ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ没收シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス

○第四十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知り其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十八條 第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十九條 特許證主特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ特許品タルコトヲ知りテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十條 特許證主其ノ特許品ノ要部ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販賣シタル部分ニ對シ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法ノ送達更ト準視ス

附則

第五十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ特許ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス

特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

第十六章 特許法施行細則

明治三十二年六月二十日 農商務省令第十三號 改正 第三八年 第一號

特許法施行細則左ノ通相定ム

特許法施行細則

第一章 總則

第一條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲ス者ハ一件毎ニ書面一通ヲ作り住所及ヒ差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シテ差出スヘシ但書類ノ除本、圖面ノ調製、特許原簿其他ノ書類、雛形又ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其員數ニ應スル副本ヲ添附スヘシ

第二條 本則ニ書式ノ定アル場合ニ在リテハ書面ハ其書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三條 書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其譯文ヲ添附スヘシ

第四條 特許出願後、特許ノ改訂若クハ分割ノ出願後又ハ特許後其出願若クハ特許ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ其願書番號若クハ特許番號及ヒ發明ノ名稱ヲ記載シ審判請求中ノ事件ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ審判番號ヲ記載スヘシ

第五條 [削除]

第六條 書留郵便ヲ以テ特許ニ關スル願書、請求書、特許法第十五條第一項ノ規定ニ係ル届書及ヒ特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ差出期間ヲ定メタル書類ヲ特許局ニ差出シタルトキハ其差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リ之ヲ定ム

第七條 [削除]

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス

- 一 特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルモノ

二 登録税又ハ手数料ヲ納付セサルモノ

三 特許法若クハ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若クハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ過キタルモノ

特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項第一號若クハ第二號ニ該當スルトキ又ハ不明瞭若クハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ、追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ、追加特許願ヲ利用發明特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

書類ノ書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得第九條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者ハ其差出シタル書類、雛形又ハ見本ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査若クハ審判ノ繫屬中ニ在リサルモノハ此限ニ在ラス

審査中特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ、追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ、追加特許願ヲ利用發明特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍内ニ於テ特許ノ請求範圍ヲ増減變更シ又ハ審査若クハ審判ノ繫屬中書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第十條 外國人又ハ外國法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ外國人ニ在リテハ國籍證明書、外國法人ニ在リテハ國籍及ヒ法人タルコトノ證明書ヲ差出スヘシ但帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明スル者ハ國籍證明書ヲ差出スコトヲ要セス

又ハ法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトノ證明書ヲ差出スヘシ第十條ノ三 同時ニ數個ノ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前二條ニ依リ差出ス證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添附セサル書面ニハ其旨ヲ附記スルコトヲ得

第十條ノ四 前三條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付キ特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタルモノナルトキ其他特許局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得

第十一條 發明者ノ承繼人ヨリ其發明ノ特許以前特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其承繼人タルコトヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但其事由ヲ附記シ被承繼人ト述署スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 代理人カ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其代理權ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但法人ノ代表者其法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 特許法第六條ノ規定ニ依リ代理人ヲ定メタルトキハ其旨ヲ届出ツヘシ
出願ノ際届出テタル前項代理人ノ代理權ハ別段ノ明記ナキトキハ特許後尙ホ存續スルモノト推定ス

第十四條 特許法第七條ノ規定ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ代理人ニ通知スヘシ
第十五條 特許局長又ハ審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當業者ノ請求ニ因リ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若クハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ變更スルコトヲ得但相手方其他ノ關係人アル事件ノ期日若クハ期間變更ノ請求ニ對シテハ當業者合意ノ申立ニ因リ又ハ顯著ナル理由アリト認ムル場合ノ外之ヲ許可セス

第十五條ノ二 特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ニ關シ特許局長又ハ審判長ノ命ニ依リ差出スヘキ圖面ノ調製ヲ特許局ニ請求シ成規ノ手数料ヲ納付シタルモノニ付テハ其手数料納付ヨリ特許局ニ於テ圖面ノ發送ヲ爲ス迄ノ期間ハ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間ニ之ヲ算入セス

第十六條 特許局ニ差出シタル雛形、見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケントスル者ハ其差出ノ際豫メ其旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其受取ノ手續ヲ爲スヘシ但雛形又ハ見本ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ還付セス

第十七條 數人共同シテ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキ又ハ特許ヲ共有スルトキハ代表者一人ヲ選定シテ其旨ヲ届出テ又ハ之ヲ書類ニ記載スヘシ其届出又ハ記載ナキトキハ各人互ニ代表スルモノト看做ス

第十八條 特許法ニ依リ特許局ニ於テ爲スヘキ書類ノ送付ニシテ書留郵便ニ依ルモノハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 特許局ノ使丁ヲ以テ書類ノ送付ヲ爲ストキハ使丁ハ其書類ノ封皮ニ送付ノ日時ヲ記載シテ之ニ捺印スヘシ

書類ノ送付ヲ受ケタル者ハ其受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ使丁ニ交付スヘシ

第十九條ノ二 第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ニ對スル送付ハ郵便ニ付シタル日ヲ以テ完了シタルモノト看做ス

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其他ノ事由ニ因リテ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其事由ヲ公告スヘシ此場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ起算シテ二十日ヲ經過シタルトキハ其末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十一條 (削除)

第二十二條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者、特許證主又ハ其代理人若クハ代表者カ其氏名、住所若クハ印章ヲ變更シタルトキ又ハ其代理人若クハ代表者ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ

氏名又ハ印章變更ノ届書ニハ證明書ヲ添附スヘシ

第二十三條 特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル届書ニハ說明書及ヒ圖面ヲ添附スヘシ

第二十四條 何人ト雖モ其利害關係ヲ説明スルトキハ特許ニ關スル事項ノ證明、書類、雛形若クハ見本ノ閱覽

又ハ特許證複本ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

但特許局長ニ於テ秘密ヲ要スルト認ムルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第二章 出願

第二十五條 特許法第十四條ノ規定ニ依ル特許願書ニハ最初出願ノ當時差出シタル願書、明細書及ヒ圖面ノ謄本ニシテ其出願ヲ爲シタル國ノ政府ニ於テ認證シタルモノ又ハ其出願ヲ爲シタル國ノ政府ニ於テ發行シタル公報若クハ特許證ニシテ其出願ノ年月日、發明ノ明細書及ヒ圖面ヲ掲載シタルモノヲ添附スヘシ

第二十六條 特許法第十五條第二項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ博覽會又ハ共進會ノ物品受領證ヲ添附スヘシ

特許法第十五條第三項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ萬國博覽會ヲ開設シタル國ニ於テ特許願ノ期間ヲ與ヘタル證明書ヲ添附スヘシ

第二十六條ノ二 特許法第二十六條ノ規定ニ依ル特許證ノ改訂又ハ分割ノ願書ニハ特許證ヲ添附スヘシ

第六十七條ノ三第一項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十七條 特許ノ出願アリタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其番號、發明ノ名稱、出願人及ヒ代理人ノ氏名並ニ願書差出ノ年月日等ヲ記載スヘシ

前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ其番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第二十七條ノ二 特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ハ願書ノ名義變更ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

前項ニ因リ願書ノ名義變更アリタルトキハ其出願ニ關シ差出シタル請求書其他ノ書類ノ名義モ變更アリタルモノト看做ス

第二十八條 明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 發明ノ名稱
- 二 發明ノ性質及ヒ目的ノ要領
- 三 圖面ノ略解

四 發明ノ詳細ナル説明

五 特許ノ請求範圍

他ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付テノ出願ナルトキハ其發明ト原發明トノ關係ヲ發明ノ詳細ナル説明中ニ明記スヘシ

第二十九條 特許ノ請求範圍ハ發明ノ要部ニ限り之ヲ記載スヘシ

第三十條 圖面ニハ發明ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ナルトキハ其發明ト原特許發明トノ關係ヲモ示スヘシ

第三十一條 雜形及ヒ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用キ曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但此制限ニ從ヒ難キトキハ此限ニ在ラス

製品ノ原料カ發明ノ要部ヲ爲ストキハ雜形及ヒ見本ハ其原料ヲ用キ之ヲ作ルヘシ

物質ノ發明ニ付キ見本ヲ提出スルトキハ試驗用ニ供スルニ足ル分量及ヒ其成分ヲ差出スヘシ

第三十二條 雜形又ハ見本カ破損又ハ變化シ易キモノナルトキハ差出人ハ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ差出スヘシ

第三十三條 雜形又ハ見本ノ滅失、毀損ニ付テハ特許局ハ其責ニ任セス

第三十四條 特許出願ヲ分割セントスル者ハ其分割部分ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ前項ノ場合ニ於ケル新ナル出願ハ最初出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス

第三章 審査

第三十五條 [削除]

第三十六條 [削除]

第三十七條 審査官カ發明ノ審査ニ關シ出願人ヲシテ其試驗ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ出願人ヲシテ試驗ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條 査定書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 願書ノ番號

二 發明ノ名稱

三 出願人ノ氏名

四 削除

五 査定ノ主文及ヒ理由

六 査定ノ年月日

第三十九條 再審査査定書ニハ前條第一號、第二號、第五號及ヒ第六號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ

審査官之ニ署名スヘシ

一 再審査請求人及ヒ關係人ノ氏名

二 不服理由ノ要領

第四十條 左ノ場合ニ於テハ發明牴觸ノ査定ヲ爲スヘカラス

一 特許ヲ與フヘカラスル他ノ理由ノ存スルトキ

二 出願人ニ於テ其發明ノ完成カ牴觸スヘキ發明ノ完成後ナルコトヲ自認シタルトキ

三 審査官ニ於テ其發明ノ完成カ明カニ牴觸スヘキ發明ノ完成後ナルコトヲ認ムルトキ

第四十一條 牴觸査定書又ハ發明完成ノ前後ニ關スル査定書ニハ第三十八條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 牴觸番號

二 牴觸スヘキ發明ノ願書又ハ特許ノ番號

三 牴觸スヘキ發明ノ名稱

四 牴觸スヘキ發明ノ出願人又ハ特許證主ノ氏名住所

五 牴觸スヘキ發明ノ要領又ハ關係人陳述ノ要領

第四十二條 發明牴觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ之ヲ關係人ニ通知シ三十日以内ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

第四十三條 始末書ニハ抵觸番號及ヒ發明ノ完成ニ關スル事實ノ詳細ナル説明ヲ記載スヘシ

第四十四條 特許局長カ始末書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ

審査官カ答辯ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ關係人カ始末書又ハ答辯書ヲ訂正又ハ追加シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 始末書又ハ答辯書ニハ之ヲ記載シタル事實ノ證明ニ必要ナル證據物件ヲ添附スヘシ

第四十六條 特許證主カ指定ノ期間内ニ始末書又ハ答辯書ヲ差出ササルトキハ審査官ハ直ニ査定ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 抵觸ノ原因カ消滅シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四章 審判

第四十八條 審判請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所
- 二 審判事件ノ表示
- 三 請求ノ要旨及ヒ理由

第四十九條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審判番號
- 二 請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所
- 三 審判事件ノ表示
- 四 答辯又ハ辯駁ノ要旨及ヒ理由

第五十條 審判ノ請求アリタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其番號、審判事件、當事者及ヒ代理人ノ氏名並ニ請求書差出ノ年月日等ヲ記載スヘシ

前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ其番號ヲ當事者ニ通知スヘシ

第五十條ノ二 數人ノ所有ニ係ル一特許ニ付キ特許證主ニ對シ審判ヲ請求セントスルトキハ其各所有者ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ

第五十條ノ三 特許ニ付キ審判ノ請求アリタル後其特許カ他人ニ移轉スルモ審判ニ影響ヲ及ボスコトナシ

前項ノ場合ニ於テ其移轉カ全部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ニ代リ當事者ト爲リ其移轉カ一部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ト共ニ當事者ト爲リ以後ノ手續ヲ續行スルコトヲ得

但承繼カ相續ニ原因スルトキハ其承繼人ハ當然當事者ト爲ルモノトス
前項ノ場合ニ於テハ其承繼及ヒ相手方ノ同意ヲ證スル書面ヲ添ヘ其旨ヲ審判長ニ届出ツヘシ但前項但書ノ場合ニ於テハ相手方ノ同意ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス

第五十條ノ四 審判長必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ訊問書ヲ發シ相當ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長カ前項ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ關係人カ任意ニ差出シタル答辯書、辯駁書其他ノ申立書ニシテ審判長カ必要ト認メタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ相手方ニ對シ答辯書又ハ意見書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五十條ノ五 第四十五條ノ規定ハ審判請求書、答辯書、辯駁書、意見書其他ノ申立書及其訂正又ハ追加ニ之ヲ準用ス

第五十條ノ六 他人ノ間ニ成立セル審判ノ結果ニ因リ權利上利害關係ヲ有スル者ハ其審判ノ終結スル迄其一方ヲ補助スル爲其審判ニ參加センコトヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

參加人ハ其參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限ハ其主タル請求人又ハ被請求人ノ爲ニ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ施用シ其他審判ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但其補助スル當事者ノ行爲ト抵觸スルモノハ其效ナシ

第五十條ノ七 參加ノ請求ヲ爲サントスル者ハ當事者、審判事件、利害關係及ヒ參加ノ申立ヲ記載シタル請求書ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第五十條ノ八 請求人又ハ被請求人参加ニ付キ異議ヲ述フルトキハ當事者及ヒ参加請求人ヲ審訊シタル後参加ノ許否ヲ決ス

第五十條ノ九 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判ニ付キ其審理若クハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得

第五十一條 審判ノ請求人カ其請求ヲ取消シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第五十二條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ

第五十三條 口頭審判ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得

第五十四條 口頭審判ニ於テハ調書ヲ作り審判長及ヒ之ヲ作りタル官吏署名捺印スヘシ

第五十五條 審決アリタルトキハ特許局長ハ其審決書ノ謄本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五十六條 審決書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ

一 審判番號

一 當事者ノ氏名、住所

三 審判事件ノ表示

四 當事者陳述ノ要領

五 審決ノ主文及理由

六 審決ノ年月日

第五十七條 審判官カ査定ヲ不當ナリト審決シタルトキハ特許局長ハ更ニ審査ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 審判ニ關スル費用ノ負擔又ハ其費用額ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作り費用計算書其他必要ナル書類ヲ添附シテ之ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長ハ必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第五十九條 前條ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ其決定書ノ謄本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五章 特許

第六十條 審査官カ特許ヲ與フヘシト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ且其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第六十一條 特許法第十七條第一項ニ定メタル査定アリタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ相當ノ期間ヲ定メテ原特許證主ノ承諾書ヲ差出サシムヘシ

出願人カ原特許證主ノ承諾書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

原特許證主カ承諾ヲ與ヘサル場合ニ於テ特許局長カ出願人ニ特許ヲ與ヘタルトキハ特許原簿ニ登錄シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ原特許證主ニ通知スヘシ

第六十二條 特許證主ニ支拂フヘキ報酬ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作り報酬ノ金額及ヒ其計算ニ關スル書類ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期間ヲ定メテ其意見ヲ聽クコトヲ得

第六十三條 特許局長カ報酬ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定書ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第六十四條 審査官カ特許證ノ改訂又ハ分割ヲ許可スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ニ登錄シ且其査定書ヲ出願人ニ送付シ改訂特許書又ハ分割特許證ヲ下付スヘシ

第六十五條 特許證ハ第六十七條ノ三第二項ニ依ル下付及ヒ再下付ノ場合ヲ除クノ外第九號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第六十六條 相續ニ因リテ特許ヲ取得シタル者ハ其證明書ヲ特許局ニ差出シ特許證ノ書換ヲ申請スヘシ

第六十七條 特許法第四條第二項ニ定メタル登錄ヲ受ケントスル者ハ請求書ヲ作り登錄原因ヲ證スル書面及ヒ特許證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ但特許ノ共有者又ハ制限附讓受人ニシテ特許證ヲ所持セサル者ノ承繼人ハ其被承繼人ノ下付ヲ受ケタル特許證原本ヲ差出シテ特許證ノ差出ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ登錄原因ヲ證スル書面ノ還付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ外登錄原因ヲ證スル書面ノ謄本ニ

シテ特許證主又ハ請求人ノ署名捺印シテ原本ト相違ナキコトヲ認證シタルモノ一通ヲ差出スヘシ
第一項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登錄シタル後登錄事項ヲ特許證又ハ特許證複本ニ記
載シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ

第六十七條ノ二 特許以前其出願ノ證明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ニシテ其特許以前願書ノ名義變更ノ請求
ヲ爲ササリシ者又ハ相續、讓渡及ヒ共有以外ノ原因ニ因リ特許ヲ承繼シタル者ハ特許證ノ名義變更ヲ特許局
ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ請求書ヲ作り承繼ヲ證スル書面及ヒ特許證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ
但特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ノ差出スヘキ承繼ヲ證スル書面ハ確定日附アル私署證
書又ハ公正證書ヲ用ユヘシ

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ請求ニ之ヲ準用ス
第六十七條ノ三 前三條ノ場合ニ於テ特許證ヲ差出スコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ證明シテ特許證ノ書
換、登錄又ハ特許證ノ名義變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ新ニ特許證ヲ調製シテ之ヲ請求人ニ下付スヘ
シ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊特許證ハ無効トス此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ官報及ヒ特許公報ヲ以テ
公告スヘシ

第六十七條ノ四 裁判所ニ於テ特許ニ對スル差押、假差押又ハ假處分アリタルトキハ當事者ハ特許原簿ニ其登
録ヲ請求スルコトヲ得其登錄後變更若クハ消滅アリタル場合亦同シ

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ請求書ニ登錄原因ヲ證スル書面及ヒ其謄本ニシテ請求人ノ署名捺印シテ原本
ト相違ナキコトヲ認證シタルモノヲ添附シテ差出スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ登錄原因ヲ證スル書面ニ其旨ヲ記入シ之ヲ請求
人ニ還付スヘシ

第六十八條 特許法第十六條ノ規定ニ依リ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限
シ又ハ取消ストキハ其理由ヲ出願人又ハ特許證主ニ通知スヘシ

第六十九條 特許原簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

- 一 特許ノ番號
- 二 發明ノ名稱
- 三 特許證主ノ氏名、住所外國人又ハ外國法人ニ在リテハ並ニ其國籍
- 四 特許ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタルトキハ其制限
- 五 特許ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ定アルトキハ各共有者ノ持分
- 六 特許ノ質入ニ付テハ債權額、其利息、辨濟期、質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日
- 七 特許證ノ名義變更ニ付テハ其理由
- 八 特許ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更若クハ消滅ニ付テハ其理由
- 九 第十七條第一項ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル特許證主ノ代理者
- 十 帝國内ニ住所ヲ有セサル特許證主ノ代理人ノ氏名、住所
- 十一 特許ノ制限ニ付テハ其事由及ヒ制限ノ範圍
- 十二 利用發明特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許證主ノ承諾ノ有無
- 十三 追加特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許登錄ノ年月日
- 十四 特許法第二十五條ノ規定ニ依ル特許ニ付テハ前特許登錄ノ年月日
- 十五 特許證ノ改訂又ハ分割ニ付テハ其事由
- 十六 特許ニ係ル審判ノ請求及ヒ其確定ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十七 特許ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十八 特許證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十九 特許證複本ノ下付ニ付テハ其事由、年月日及ヒ請求人ノ氏名、住所

二十 第六十七條ノ三第二項ニ依ル特許證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日
二十一 登録ノ年月日

第七十條 特許原簿ニ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ其變更又ハ消滅ノ登録ヲ爲スヘシ

第七十一條 特許無効ノ審決カ確定シタルトキ又ハ特許カ消滅シタルトキハ特許證主及ヒ特許證複本ノ所持者ハ遲滞ナク其特許證及ヒ特許證複本ヲ返納スヘシ

第七十二條 特許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第七十三條 特許證主カ特許料ヲ納メタルトキハ特許局長ハ領收證ヲ交付スヘシ

第七十四條 特許證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ特許證主又ハ其承繼人ハ其事實ヲ疏明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ二 圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求ノ際雛形、見本又ハ下圖ヲ特許局ニ差出スヘシ但特許局ニ存スル雛形見本又ハ圖面ニ依リ調製スルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第七十四條ノ三 特許證複本、第六十七條ノ三第二項又ハ第七十四條ニ依リ下付スル特許證ニハ第六十九條第一號乃至第三號及ヒ第六號、第十一號、第十三號、第十五號、第十八號、第十九號又ハ第二十號ニ規定シタル事項並ニ特許證ノ種類、特許年限、讓渡ニ附シタル制限アルトキハ其制限、共有者ノ持分ノ定メアルトキハ其持分ヲ記載シ明細書及ヒ必要ノ圖面ヲ添附シ其利用發明特許證ニ係ルトキハ尙原特許ノ番號、原發明ノ名稱ヲ記載シ其特許證複本ニ付テハ尙ホ其複本ナルコト及ヒ其番號ヲ記載スヘシ

附則

第七十五條 本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許意匠商標ニ關シ書留郵便ヲ以テ書類提出心得方

明治三十二年七月一日
農商務省告示第六十二號

明治三十二年七月一日以後特許法、意匠法及ヒ商標法施行細則ノ定ムル所ニ依リ書留郵便ヲ以テ願書、請求書、博覽會若クハ共進會ノ出品ニ關スル願書又ハ差出期間ノ定メアル書類ヲ差出ストキハ其封筒ノ表面ニ「特許(意匠又ハ商標)ニ關スル書類」ト朱書スヘシ

第十七章 特許、意匠及商標ニ關スル手数料制

明治三十二年五月十五日
勅令第百九十五號

朕特許、意匠及商標ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 特許、意匠又ハ商標ニ關シ左ニ掲クル書類ヲ差出ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
 - 一 特許願書 每一件 金五圓
 - 二 追加特許願書 每一件 金三圓
 - 三 特許證改訂願書 每一件 金五圓
 - 四 特許證分割願書 每一箇 金五圓
 - 五 意匠登録願書 每一件 金一圓
 - 六 商標登録願書 每一件 金三圓
 - 七 標章登録願書 每一件 金三圓
 - 八 登録商標續用登録願書 每一件 金二圓
 - 九 再審査請求書 每一件 金三圓
 - 十 審判請求書 每一件 金十二圓
 - 十一 書類ノ謄本ノ請求書 謄本十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢、字数一枚ニ滿タサルモノハ一枚トス、歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢、百語ニ滿タサルモノ亦

- 十二 圖面ノ調製ノ請求書
 - 十三 原簿ノ一覽ノ請求書
 - 十四 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル屆書
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
- 第三條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

同シ
圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル金額
每一件 金十錢
每一件 金一圓

明治三十八年一月四日
農商務省令第四號

- 明治三十二年農商務省令第十六號左ノ通改正ス
- 第一條 特許、意匠又ハ商標ニ關シ左ニ掲クル請求又ハ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
- 一 期日又ハ期間變更ノ請求 每一件 金二十錢
 - 二 證明ノ請求 每一件 金五十錢
 - 三 審判ニ關スル費用ノ負擔及ヒ費用額決定ノ申請 每一件 金五十錢
 - 四 利用發明ノ特許ニ付原特許證主ニ支拂フヘキ報酬額決定ノ申請 每一件 金五十錢
 - 五 相續ニ因ル特許證、意匠登錄證若クハ商標登錄證ノ書換又ハ名義變更ノ請求 每一件 金一圓
 - 六 特許證再下付ノ請求 每一件 金三圓
 - 七 意匠登錄證又ハ商標登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓

- 八 特許證複本ノ請求 每一件 金三圓
 - 九 意匠登錄證複本又ハ商標登錄證複本下付ノ請求 每一件 金一圓
 - 十 書類雛形又ハ見本閲覧ノ請求 每一件 金十錢
 - 十一 參加ノ請求 每一件 金三圓
 - 十二 差押、假差押若クハ假處分又ハ其變更若クハ消滅登錄ノ請求 每一件 金五十錢
 - 十三 商標專用年限滿了前三箇月以內ニ於ケル商標續用登錄受理ノ請求 每一件 金一圓
 - 十四 相續以外ノ原因ニ因ル特許證ノ名義變更ノ請求 每一件 金五圓
 - 十五 相續以外ノ原因ニ因ル意匠登錄證ノ名義變更ノ請求 每一件 金一圓
 - 十六 相續以外ノ原因ニ因ル商標登錄證ノ名義變更ノ請求 每一件 金五圓
 - 十七 特許願書ノ名義變更ノ請求 每一件 金二圓
 - 十八 意匠登錄願書ノ名義變更ノ請求 每一件 金五十錢
 - 十九 商標登錄願書又ハ標章登錄願書ノ名義變更ノ請求 每一件 金一圓
- 第二條 手数料ハ其納付スヘキ金額ニ相當スル收入印紙ヲ差出スヘキ書類ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ但口頭ヲ以テ前條ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局官吏ノ作成シタル書面ニ收入印紙ヲ貼附スヘシ

附則

第三條 本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八章 意匠法 明治三十二年三月二日 法律第三十七號

●意匠法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル意匠法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十三編 産業 第十八章 意匠法

意匠法

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲グル意匠ハ登録ヲ受ケルコトヲ得ス

- 一 菊紋御紋章ト同一若ハ類似ノ形狀、模様ヲ有スルモノ
- 二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
- 三 意匠登録出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用キテタルモノ若ハ之ト類似スルモノ但シ自己ノ登録意匠ト類似スルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 意匠専用ノ年限ハ十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス但シ類似意匠ノ専用年限ハ原意匠ノ有效年限ニ伴フ

第四條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル物品ニ限ル

第五條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ニ係ル登録出願ノ權利ハ其ノ委託者若ハ雇主ニ屬ス但シ別ニ契約アル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六條 意匠専用權ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

類似意匠ヲ所有スル者ハ其ノ類似意匠ト共ニ讓渡シ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スニ非サレハ前項ノ登録ヲ受ケルコトヲ得ス

第七條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠専用權ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第八條 意匠ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一意匠毎ニ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ明記シ雛形、見本若ハ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

特許局長ハ出願者ニ對シ雛形、見本、圖面、説明書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 二人以上同一又ハ相類似スル意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登録ス其ノ同時ノ出願ニ係ルモノハ共ニ之ヲ登録セス但シ出願者共有ノ目的ヲ以テ連名登録ノ申出ヲ爲シタルトキ又ハ出願者一人ト爲リタルトキハ此ノ限ニアラス

第十條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ意匠登録ヲ出願シタル者四箇月以内ニ同一意匠ニ付登録ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ニシテ第一條第二條第五條又ハ第九條ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス

第十二條 登録ヲ受ケタル意匠ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

- 一 意匠登録證主意匠料納付期限後六十日ヲ經過シ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ
 - 二 意匠登録證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十二條ニ依リ特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ
- 第十三條 意匠登録證主ハ意匠料トシテ各意匠ニ付第一年ヨリ第三年マテハ毎年三圓第四年ヨリ第六年マテハ毎年五圓第七年ヨリ第十年マテハ毎年七圓ヲ納ムヘシ

第十四條 類似意匠ノ登録ヲ受ケタルトキハ各類似意匠ニ付一時ニ金三圓ヲ納ムヘシ

第十五條 意匠料ハ毎年一年分ヲ登録證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及前條第二項ノ意匠料ハ登録査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第十六條 前納シタル意匠料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ意匠料ヲ納付シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ到ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第十七條 意匠登録證主ハ其ノ意匠ヲ應用シタル物品ニ意匠登録ノ標記ヲ付スヘシ

第十八條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十九條 賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第十七條 他人ノ登録意匠ヲ模擬シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ模擬シタル物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録意匠ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知りテ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條 前項ノ場合ニ於テ没收シタル物件ハ之ヲ意匠登録証主ニ給付ス

第十九條 詐偽ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ其ノ意匠ノ登録ヲ受ケタルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十條 第十七條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十一條 意匠登録証主登録標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ登録意匠タルコトヲ知りテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條及第五十一條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 明治二十一年勅令第八十五號意匠條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

意匠條例ニ依テ受ケタル登録ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル登録ト同一ノ效アルモノトス

意匠ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ

請求ト看做シ處分スヘシ

第十九章 意匠法施行細則

明治三十二年六月二十日
農商務省令第十四號 改正 三八年 第三號

意匠法施行細則左ノ通相定ム

意匠法施行細則

第一條 意匠登録願書ハ第七條ニ定メタル類別毎ニ之ヲ作ルヘシ

意匠登録願書ニ添附スヘキ圖面ハ二通ヲ添附スヘシ

雛形又ハ見本ヲ差出ストキハ圖面二通ヲ添附スヘシ但雛形又ハ見本カ貼附シ得ヘキモノナルトキハ紙面ノ上部曲尺六分下部四分左二分右一寸四分ヲ餘シ曲尺九寸七分以内横六寸以内ノ面内ニ之ヲ貼附シテ差出人ニ署名捺印シタルモノ二箇ヲ差出シ圖面ノ差出ヲ省略スルコトヲ得

第二條 雛形及ヒ見本ハ曲尺二尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但此制限ニ從ヒ難キトキハ此限ニ在ラス

第三條 圖面ニハ強靱ナル白紙若クハ覆寫布ヲ用キ上部曲尺六分下部四分左二分右一寸四分ヲ餘シ曲尺

八寸横四寸八分ノ面内ニ意匠ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ意匠ノ名稱ヲ記載シ差出人ニ署名捺印スヘシ
寫眞ヲ以テ圖面ニ代用スルトキハ寫紙ヲ附セス

前項ノ例ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 削除

第五條 意匠登録證ハ第八條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項ニ依ル下附及ヒ再下附ノ場合ヲ除ク

ノ外第五號又ハ第六號書式ニ依リ之ヲ作り圖面、雛形、見本又ハ寫眞ヲ添附スヘシ

第六條 意匠原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

一 登録ノ番號

二 意匠ノ名稱

第十三編 産業 第十九章 意匠法施行細則

- 三 類別及物品
- 四 登録證主ノ氏名、住所外國人又ハ外國法人ニ在リテハ並ニ其國籍
- 五 類似意匠ニ付テハ原意匠ノ登録番號及ヒ其登録ノ年月日
- 六 意匠專用權ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタルトキハ其制限
- 七 意匠專用權ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ定アルトキハ各共有者ノ持分
- 八 意匠專用權ノ質入ニ付テハ債權額、其利息、辨濟期、質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日
- 九 登録證ノ名義變更ニ付テハ其事由
- 十 意匠專用權ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更若クハ消滅ニ付テハ其事由
- 十一 第八條ニ基キ特許法施行細則第十七條第一項ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル登録證主ノ代表者
- 十二 帝國内ニ住所ヲ有セサル登録證主ノ代理人ノ氏名、住所
- 十三 意匠專用權ニ係ル審判ノ請求及ヒ其確定ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十四 意匠專用權ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十五 登録證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十六 登録證模本ノ下付ニ付テハ其事由、年月日及ヒ請求人ノ氏名、住所
- 十七 第八條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項ニ依ル登録證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十八 登録ノ年月日
- 第六條ノ二 意匠登録證模本、第八條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項又ハ第七十四條ニ依リ下付
スル意匠登録證ニハ第六條第一號乃至第四號及ヒ第五號、第八號、第十五號、第十六號又ハ第十七號ニ規定
シタル事項並ニ意匠登録證ノ種類、意匠專用年限、讓渡ニ附シタル制限アルトキハ其制限、共有者ノ持分ノ
定アルトキハ其持分ヲ記載シ圖面、雛形、見本又ハ寫眞ヲ添附シ其意匠登録證模本ニ付テハ其模本ナルコト
及ヒ其番號ヲ記載スヘシ
- 第七條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セントスル物品ヲ指定スヘシ

- 第一類 被服
- 衣、裳、外套、視衣、帶、襟、領卷、肩掛等
- 第二類 頭飾、服飾
- 櫛、簪、根掛、胸飾、領飾、腕環、指環、釦鈕等
- 第三類 時計、附屬品
- 錶時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等
- 第四類 傘、杖、鞭
- 第五類 携帶品
- 紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提鞆等
- 第六類 家具、室内裝飾品
- 棚、箆筒、机、椅子、桌子、寢臺、額、屏風、衝立、窓掛、卓被等
- 第七類 敷物
- 段通、油圍、花筵等
- 第八類 暖室具、附屬品
- 暖爐、火鉢、煙草盆、炭取、石炭入、火箸等
- 第九類 燈器
- 燭臺、手燭、行燈、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈等
- 第十類 建築物ノ附屬品
- 障子、戸、扉、柵、欄干、引手、釘隠等
- 第十一類 織物及ヒ他類ニ屬セサル織物製品
- 絹、綿、麻、毛等各種ノ織物、服紗、手巾等
- 第十二類 他類ニ屬セサル編物、組物

「レース」、打紐、飾線等

第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス)

第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉瓦、瓦等モ之ニ屬ス)

第十五類 他類ニ屬セサル玻璃

第十六類 他類ニ屬セサル七寶

第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品

第十八類 他類ニ屬セサル石材製品

第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

第二十類 紙及ヒ他類ニ屬セサル紙製品

第二十一類 皮草及ヒ他類ニ屬セサル皮革製品

第二十二類 冠物

帽子、頭巾、笠等

第二十三類 履物、附屬品

下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第二十四類 扇及ヒ團扇

第二十五類 飲食器

膳、椀、茶碗、皿、鉢、杯、德利、菓子器、鐵瓶、土瓶、茶托、杯臺、紅茶具、珈琲具、匙、箸、箸箱、重箱等

第二十六類 文房具

硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨臺、水滴、印材、肉池、文臺、硯箱、筆、墨、「インキ」壺、「ペン」軸等

第二十七類 樂器、玩具及ヒ遊戯具

第二十八類 菓子及ヒ其他ノ食品

第二十九類 他類ニ屬セサル物品

第八條 特許法施行細則第一條乃至第二十六條、第二十七條、第二十七條ノ二、第三十二條乃至第三十四條、

第三十八條、第三十九條、第四十八條乃至第六十條、第六十六條乃至第六十七條ノ四、第七十條乃至第七十

四條ノ二ノ規定ハ、意匠ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第九條 本則ハ、意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十章 商標法

明治三十二年三月二日
法律第三十八號

商標法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標法

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲商標ヲ專用セントスル者ハ此ノ法律ニ依リ其ノ登録ヲ受クヘシ

第二條 文字、圖形又ハ記號ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

一 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章又ハ外國ノ國旗ト同一若ハ類似ノモノ

三 秩序又ハ風俗ヲ紊リ若ハ世人ヲ欺虞スルノ虞アルモノ

四 他人ノ登録商標又ハ其ノ登録失効後一年ヲ經過セサルモノト同一若ハ類似ニシテ同商品ニ使用セントスルモノ

五 此ノ法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若ハ類似ノモノ

六 商品ノ普通名稱、產地ヲ表彰スルモノ又ハ其ノ品位、品質、形狀ヲ商業上慣用ノ文字、圖形若ハ記號

ニ依リ表彰スルモノ及普通ニ使用セラルル氏名、商號、會社名若ハ組合名ヲ普通ノ書體ニ依リ記載スル

七

欄、地紋其ノ他特別著明ノ外觀ナキモノ

第三條 商標專用ノ年限ハ二十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

外國ノ登録商標ニシテ帝國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノノ専用年限ハ原登録ノ有效年限ニ從フ但シ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 商標専用年限満了ノ後其ノ商標ヲ續用セントスル者ハ更ニ其ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

第五條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル商品ニ限ル

第六條 登録商標主其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其ノ營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其ノ商標ヲ讓渡シ若ハ共有ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登録商標主同商品ニ付類似ノ商標ヲ有スルトキハ共ニ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スルニ非サレハ前項ノ登録ヲ受ケルコトヲ得ス

第七條 商標ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一商標毎ニ其ノ商標ヲ付スヘキ商品ヲ明記シ見本ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

第八條 二人以上同一又ハ相類似スル商標ヲ同商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登録シ同時ニ出願シタルモノハ共ニ之ヲ登録セス但シ出願者一人トナリタルトキハ此ノ限ニアジス

第九條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ商標登録ヲ出願シタル者四箇月以内ニ同一商標ニ付登録ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ニシテ第二條又ハ第八條ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス

但シ第二條第四號若ハ第五號ニ該當シ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルモノニシテ登録後三年ヲ經タルトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 登録ヲ受ケタル商標ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

トヲ得

一 登録商標主登録後其ノ商標ヲ使用スル商品ノ産地、品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

二 登録商標主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十條ニ依ル特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第十二條 商標専用權ハ登録商標主其ノ商標ヲ使用スル營業ノ廢止ニ因リ消滅ス

第十三條 商標ノ登録ヲ受ケル者ハ一商標ニ付商品一類毎ニ商標料金三十圓ヲ納ムヘシ續用ノ登録ニ付テモ亦同シ

第十四條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ商標登録ニ關スル必要事項ヲ公示スヘシ

第十五條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第十六條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知り其ノ承諾ヲ經スシテ之ト同一又ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録商標ヲ有スル容器、包装等ナルコトヲ知り之ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者又ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商標販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使

用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標ヲ表示スヘキ原具ヲ沒收ス其ノ商標ト分離スヘカラサル商品、容器、包裝等ハ之ヲ毀壞セシム

第十九條 第十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條及第五十一條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

第二十一條 主務官廳ニ於テ認可シタル同業者ノ組合ニシテ標章ヲ商標トシテ専用セントスルトキハ此ノ法律ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ登録ヲ受ケタル標章ハ登録商標ニ準ス

附則

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 明治二十一年勅令第八十六號商標條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

商標條例ニ依テ受ケタル商標ハ此ノ法律ニ依テ受ケタル商標ト同一ノ效アルモノトス

商標ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

第二十四條 明治二十一年勅令第八十六號商標條例第二條第三項ニ該當シ又ハ同第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタル商標ニシテ同第十條ニ依リ無効タルヘキモノニ對シテハ此ノ法律施行後二年ヲ經過スルトキハ其ノ登録無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十一章 商標法施行細則

明治三十二年六月二十日 農商務省令第十五號

改正

三十八年 第三號第三一號

商標法施行細則左ノ通相定ム

商標法施行細則

第一條 商標登録願書ハ第十五條ニ定メタル類別毎ニ之ヲ作ルヘシ

第二條 帝國ニ於テ登録ヲ受ケントスル商標カ既ニ外國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノナルトキハ其登録願書ニ原登録證及ヒ明細書ノ謄本ニシテ其國ノ政府ニ於テ認證シタルモノヲ添附スヘシ

第三條 商標ヲ續用セントスルトキハ其專用年限滿了ノ日ヨリ三箇月以前ニ其願書ヲ特許局ニ差出スヘシ前項ノ期限後ト雖モ專用年限滿了以前ニ在リテハ別ニ手数料ヲ納付シ前項願書ノ受理ヲ請求スルコトヲ得

願書ニハ登録證ヲ添附スヘシ但亡失、毀損其他ノ事由ニ因リ添附シ能ハサルトキハ其旨ヲ證明スヘシ外國ニ於テ商標續用ノ許可ヲ得タル後帝國ニ於テ其商標ヲ續用セントスルトキハ其國ニ於テ許可ヲ得タル旨ヲ證明スル書面ヲ願書ニ添附スヘシ

第四條 共有商標ノ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ

第五條 商標ノ見本ハ強靱ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ見本ハ五通之ヲ差出スヘシ但特許局長ハ必要ト認ムルトキハ更ニ數通ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 削除

第七條 審査官カ商標ヲ登録スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ出願人カ査定書ノ送付ヲ受ケタルトキハ商標料ヲ納付シ且同時ニ商標ノ印版一箇ヲ差出スヘシ

第八條 商標ノ印版ハ木、亞鉛其他活版ニ適スルモノヲ用キ長サ及ヒ幅各曲尺三寸三分(十)「サンチメートル」以內厚サ七分九厘二毛(二)「サンチメートル」(四)トシ文字ヨリ成ル商標ノ印版ノ長サ及ヒ幅ハ各二寸一分四厘五毛(六)「サンチメートル」(五)以內トスヘシ

印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ

第九條 特許法施行細則第十六條、第三十二條及ヒ第三十三條ノ規定ハ商標ノ印版ニ之ヲ準用ス

第十條 出願人カ第七條第二項ニ定メタル手續ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ商標原簿ニ登録スヘシ

第十一條 商標登録證ハ第十七條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項ニ依ル下付又ハ再下付ノ場合ヲ

除クノ外第六號乃至第八號書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ但商標ノ續用登錄ノ場合ニ於テハ原登錄證ニ其旨ヲ附記シテ之ヲ下付スルコトヲ得

第十二條 商標ノ讓渡又ハ共有ノ登錄ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ營業ヲ讓受ケ又ハ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ

第十三條 商標料ハ登錄許可ノ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第十四條 商標原簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

- 一 登錄ノ番號
- 二 類別及ヒ商品
- 三 登錄商標主ノ氏名、住所、外國人又ハ外國法人ニ在リテハ並ニ其國籍同業組合ニ在リテハ其名稱、事務所及ヒ其代表者ノ氏名
- 四 外國ノ登錄商標ニ付テハ原登錄ノ有效年限
- 五 商標ノ續用ニ付テハ其事由
- 六 類似商標ニ付テハ原商標ノ登錄番號
- 七 商標專用ノ讓渡又ハ共有ニ付テハ其事由
- 八 登錄證ノ名義變更ニ付テハ其事由
- 九 商標專用權ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更若クハ消滅ニ付テハ其事由
- 十 第十七條ニ基キ特許法施行細則第十七條第一項ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル登錄商標主ノ代表者
- 十一 帝國内ニ住所ヲ有セサル登錄商標主ノ代理人ノ氏名、住所
- 十二 商標專用權ニ係ル審判ノ請求及ヒ其確定ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十三 商標專用權ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十四 登錄證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

- 十五 登錄證複本ノ下付ニ付テハ其事由、年月日及ヒ請求人ノ氏名、住所
- 十六 第十七條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項ニ依ル登錄證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日
- 十七 登錄ノ年月日

第十四條ノ二 商標登錄證複本、第十七條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項又ハ第七十四條ニ依リ下付スル商標登錄證ニハ商標見本ヲ貼附シ第十四條第一號乃至第三號及ヒ第六號、第十四號乃至第十六號ニ規定シタル事項並ニ商標登錄證ノ種類、商標專用年限ヲ記載シ其商標登錄證複本ニ付テハ其複本ナルコト及ヒ其番號ヲ記載スヘシ

第十五條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セントスル商品ヲ指定スヘシ

- 第一類 化學品、藥劑及ヒ醫療補助品
酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、護膜、膠、磷、酒精、伽里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、舍利別、煎劑、水劑、澆劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、石炭、硫黃、礦水、麝香、打粉、食鹽、艾、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、綿帶、綿紗、散絲、脫脂綿、海綿等
- 第二類 染料、顏料及ヒ媒染料
藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬等
- 第三類 塗料
漆、假漆、油漆、澱、靴墨、靴油、防鏽料、防水材料等
- 第四類 香料、燻料及ヒ他類ニ屬セサル化粧品
香水、香油、髮膏、香袋、線香、炷香、白粉、化粧下等
- 第五類 金屬及ヒ其半加工品
銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等
- 第六類 金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第七類 利器及ヒ尖刃器

鋸、鋸、鑿、錐、鋸、斧、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鉋、針、釘、齧等

第八類 貴金屬、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品(アルミニウム、金、「ニッケル」銀及ヒ「ブリタニヤメタル」
モ之ニ屬ス)

黃金、銀、四分一、紫銅、其他貴金屬ノ合金鍍品、「モール」等

第九類 寶石類、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品

金剛石、珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等

第十類 礦物類

第十一類 石材、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品、版石、大理石、砥石、石器等

第十二類 漆喰及ヒ土砂類

漆喰「セメント」、石膏、土漉青、土砂等

第十三類 陶磁器類

陶器磁器、土器、瓦、煉瓦等

第十四類 七寶燒

第十五類 玻璃及ヒ其製品(珪瑯質品モ之ニ屬ス)

玻璃板、玻璃管、玻璃壺、玻璃球等

第十六類 機械類(機械ノ各部モ之ニ屬ス)

織機、紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸機械、汽機、汽罐等

第十七類 農工器具

犁、鋤、鍬、稻扱、唐箕、耙、釘拔、鐵鎚、繩墨等

第十八類 理化學、醫術、測量及ヒ教育用器械、器具(眼鏡及ヒ算數器類モ之ニ屬ス)

第十九類 度量衡

第二十類 運搬用機械並ニ器具類機械及ヒ器具ノ各部モ之ニ屬ス

荷車、馬車、人力車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道用車輛、車輪等

第二十一類 樂器

第二十二類 時計及ヒ其附屬品

第二十三類 銃砲、彈丸及ヒ爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火等

第二十四類 蠶種、天蠶種及ヒ繭

第二十五類 眞綿、木綿、綿、麻、苧、羽毛類及ヒ其粗製品

第二十六類 生絲、絹絲及ヒ天蠶絲(琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス)

第二十七類 綿絲

第二十八類 毛絲

第二十九類 麻絲及ヒ第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類

第三十類 絹織物

第三十一類 木棉織物

第三十二類 毛織物類

第三十三類 麻織物

第三十四類 第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物

第三十五類 絲類ノ編物、組物及「レース」類(各種ノ紐類モ之ニ屬ス)

第三十六類 被服類

衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、襟飾、襪衣、「ツボン」下、手袋、足袋、目利安等

第三十七類 清酒

第十三編 産業 第二十一章 商標法施行細則

第三十八類

砂糖、蜜類

第二十九類

砂糖、水砂糖、糖蜜、蜂蜜等
菓子及ヒ麩類

第四十類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等
茶、珈琲及ヒ「チヨコレート」類

第四十一類

煙草類

第四十二類

穀、茶、種子及ヒ菓物類

第四十三類

五穀、蔬菜、豆、菓實、種子、根球、麩種、「モヤシ」等
挽粉、澱粉及ヒ其製品

第四十四類

穀粉、葛粉、山慈姑粉、麩類、湯葉、蒟蒻、水豆腐、凍蒟蒻等
味噌、醬物及ヒ漬物類

第四十五類

他類ニ屬セサル食料品及ヒ加味品

第四十六類

肉類、越幾斯類、卵、鰹節、鰯、乾鮑、海苔、昆布、荒布、佃煮、罐詰、雲丹、芥子、胡椒等
牛乳及ヒ其製品

第四十七類

牛乳、凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
煙具及ヒ袋物

第四十八類

煙管、煙袋、煙管筒、懷中物等
紙及ヒ其製品

第四十九類

紙、色紙、短冊、板紙、擬草紙、壁紙、油紙、澱紙、書簡筒、張文箋、一開張、帳簿、元結、水引等
文房具

第五十類

筆、墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、墨汁壺、文鎮、筆筒、筆架氣
皮革及ヒ製品(各種ノ靴類モ之ニ屬ス)

第五十一類

摺附木
毛皮、柔革、馬具、文匣、革帶、靴、唐弓絃、靴等

第五十二類

油、蠟類、石油、種油、魚油、蠟、蠟燭、脂肪等
肥料

第五十三類

干鰯、鮭粕、油粕、骨粉、糠等

第五十四類

木竹材(木皮、竹皮類モ之ニ屬ス)
木、竹、籐類ノ製品及ヒ其漆塗、蒔繪品類

第五十五類

指物、挽物、曲物、編物、組物、桶類等
甲、角、牙類ノ製品及ヒ其模造品

第五十六類

藁、草及ヒ他類ニ屬セサル其製品
麥藁、疊表、筵、笠、繩、麥藁真田等

第五十七類

傘、杖、履物及ヒ其附屬品
傘、蝙蝠傘、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第五十八類

扇子及ヒ團扇類
燈器(燈器ノ各部モ之ニ屬ス)

第五十九類

「ランプ」、燭臺、提燈等
齒磨及ヒ洗粉類(磨粉モ之ニ屬ス)

第六十類

刷子及ヒ髻類
玩具及ヒ遊戲具類(造花及ヒ花簪類モ之ニ屬ス)

第六十一類

鞆、碁、將棋、人形、獨樂、弓、球突具、押繪、骨牌等
圖畫及ヒ寫真類

第六十二類

圖畫及ヒ寫真類
書籍、新聞紙、雜誌類

第六十三類

書籍、新聞紙、雜誌類

第六十四類

書籍、新聞紙、雜誌類

第六十五類

書籍、新聞紙、雜誌類

第六十六類 洋酒

葡萄酒、麥酒「ブランデー」「ベルモト」「ウヰスキー」「リキエール」等

第六十七類 他類ニ屬セサル各種ノ酒類

味淋、白酒、燒酎、濁酒、龜ノ歲、直シ等

第六十八類 他類ニ屬セサル各種ノ飲料

曹達水、蜜柑水、「ラムネ」、氷等

第六十九類 醬油及ヒ酢類

第七十類 燃料類

第七十一類 石炭、「コーク」、薪、炭、附木、燭心等

寢具類

寢臺、蒲團、座蒲團、枕、蚊帳等

第七十二類 他類ニ屬セサル護膜製品

第七十三類 石鹼

第七十四類 他類ニ屬セサル商品

第十六條 商標法第二十一條ニ定メタル同業組合カ差出ス書面ニハ其名稱及ヒ事務所ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印スヘシ

同業組合カ標章ノ登録ヲ受ケントスル時ハ其願書ニ主務官廳ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ

第十七條、特許法施行細則第一條乃至第十五條、第十六條乃至第二十六條、第二十七條、第二十七條ノ二、第

三十二條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十八條乃至第五十九條、第六十六條乃至第六十七條ノ四

及ヒ第七十條乃至第七十四條ノ二ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第十八條 本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四編 土地 林野

第一章 土地臺帳規則

明治二十二年三月二十三日 勅令 第三十九號 改正 三十七年 第一〇七號

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登録ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ（府縣廳ニ於テ）町村ノ土地臺帳ハ（島廳郡役所）ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 （登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ）

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二章 土地臺帳規則施行細則

明治二十二年四月一日 大藏省令 第六號 改正 三十二年 第三號、三十七年 第二號、三十九年 第二〇號

三十四年 第三號、三十七年 第六號、第三十八年 第一二號、三十九年 第二〇號

勅令第三十九號土地臺帳規則施行細則左ノ通相定ム

土地臺帳規則施行細則

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登録スヘシ

第四章 土地區劃改良ニ係ル地價取扱手續

明治三十年四月五日
大藏省訓令第二十二號

明治三十年法律第三十九號施行上取扱方左ノ通相定メ明治三十年大藏省訓令第七十號ハ之ヲ廢止ス

土地區劃改良ニ係ル地價取扱手續

- 一 明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ニ付申出願シタル者アルトキハ地方廳ト協議シ支障ナキヲ認メタル上許可ヲ與フヘシ
- 二 改良地域内ニ變換地、開墾地又ハ年期ヲ有スル土地アリ事業著手ノ際其ノ地價ノ修正又ハ設定ヲ要スルトキハ事業著手前所轄稅務署ハ實地検査ノ上毎筆地價ノ修正若ハ設定ヲ爲シ土地臺帳整理ノ手續ヲ爲スヘシ但シ土地臺帳沿革欄ニハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタル旨ヲ記入スヘシ
- 三 事業竣功ノ届出アリタルトキハ所轄稅務署ヲシテ實地検査ノ上毎筆ノ區域ヲ定メ地番ヲ付シ毎筆相當ニ地價配賦ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 四 改良地ノ一筆從前ノ土地二筆以上ヲ包含シ又ハ從前ノ土地二筆以上ノ各部分ヲ包含スルトキハ其ノ地番ハ適宜從前ノ土地中其ノ一ノ地番ヲ用ユヘシ
改良地ノ一筆從前ノ土地一筆ノ部分ニ該當スルトキハ其ノ地番ハ從前ノ土地ノ地番ヲ用キ又ハ其ノ地番ニ一、二、三等ノ符號ヲ付シタルモノヲ用ユヘシ
- 五 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ事業關係者ニ於テ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地及其ノ金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セサルトキハ稅務署ヲシテ實地ノ狀況ヲ視察セシメ其ノ報告ヲ斟酌シ(稅務署管理局)長ニ於テ公平適實ニ之ヲ定ムヘシ
- 六 改良地ニ關シ土地臺帳ノ登記ヲ爲ストキハ改良地ノ地番ト同一地番ヲ有スル從前ノ土地ニ對スル用紙中ノ沿革欄ニ年月日及土地改良ノ爲メ次欄ニ改記スル旨ヲ記載シテ斜線ヲ施シ次欄ニ於テ改良地ノ地目

段別、地價、地租所有者等ヲ記入シ其ノ沿革欄ニ其ノ包含スル從前ノ土地ノ地番ヲ掲ケテ沿革ヲ明カニスヘシ從前ノ土地ノ番號ニシテ改良地ノ地番ト同一ナラサルモノアルトキハ其ノ沿革欄ニ年月日及土地改良ノ爲メ異動ヲ生シタル理由ヲ記載シ斜線ヲ施スヘシ

七 前項ニ依リ改良地ヲ土地臺帳ニ登記シタル場合ニ於テ變換ノ後五年開墾著手ノ後九年ヲ經過セサルモノ又ハ各種ノ年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期終了セサルモノアルトキハ地目交換地臺帳、荒地臺帳等ニ於ケル當該土地ノ事故欄ニ土地改良竣功ノ爲メ交換又ハ年期消滅ノ旨ヲ記入シテ斜線ヲ施スヘシ

八 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地及其ノ金額ノ定マリタルモノハ土地臺帳ニ於ケル其ノ土地ノ沿革欄ニ其ノ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ期間及其ノ金額並ニ其ノ金額ト地租額トノ合計又ハ差額ヲ記載シ其ノ期間ハ之ニ依リテ地租ノ徵收ヲ爲スヘシ

九 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ一定ノ期間負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地ニ付テハ地目交換地臺帳又ハ荒地臺帳ニ準シテ帳簿ヲ調製シ取扱上ノ便ヲ謀ルヘシ

十 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ一定ノ期間負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地ニ付第六項第八項ニ依リ土地臺帳ノ整理ヲ爲シタル時及年期滿了ノ時ニ於テ有租地集計簿ノ加除増減ヲ整理スヘシ

第五章 土地區劃改良出願方

明治三十年十一月六日
大藏省令第十九號 改正 二三年 三五年
第六號 第二八號

明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ハ事業著手ノ時期ヲ定メ設計書、現地圖及變更豫定圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ願出ツヘシ但シ出願地中ニ官有地又ハ民有第二種地ヲ包含シ之レカ異動ニ付官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其異動ニ付豫メ主管廳ノ許可ヲ受ケ其指令書ヲモ添付スヘシ前項ニ依リ許可ヲ得タル事業竣功シタルトキハ地價ノ配賦ヲ受クル爲メ各筆ノ區域ヲ豫定シ其假定地價ヲ記載シタル書面ニ地圖野取圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ但シ改良地區域内ニ地目又ハ地類變換後五年開墾

著手後九年ヲ經適セサル土地若ハ歟下年期、新開免租年期、地價据置年期、荒地免租年期又ハ低價年期ノ終了セサル土地アルトキハ殘年間修正地租若ハ低減地租ト從前ノ地租若ハ原地租トノ差額ノ負擔若ハ利益又ハ免除スヘキ地租額ノ利益ヲ受クヘキ土地及其ノ土地ニ對スル金額ヲ定メテ併セ届出ツルコトヲ要ス

第六章 宅地組換法

明治三十二年三月十四日
法律第六十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル宅地組換地ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

宅地組換法

第一條 郡村宅地ヲ市街宅地ニ、市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換ヲ要スルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 前條ニ依リ地目ヲ組換ヘタル土地ハ其ノ年ヨリ組換地目ノ地租定率ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス

第七章 耕地整理法

明治三十二年三月二十二日
法律第八十二號 改正 第三十五年 第三十六年 第三十八年

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル耕地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

耕地整理法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ其ノ所有者共同シテ土地ノ交換若ハ分合、區劃形狀ノ變更、道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置及之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備並工事ヲ行フヲ謂フ

第二條 第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理スル場合ニ於テ之ヲ準用ス

第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其ノ所有者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ

整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

前項ノ土地ニシテ其ノ所有者ノ同意ナキト雖整ノ施行ニ必要ナルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得但シ府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ公用ニ供スル土地、宅地、名勝地、舊蹟地、古墳墓地、墳墓地、社寺境内地、鐵道用地、軌道用地ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其ノ建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第五條 御料地、國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第六條 整理施行ヲ發起セントスル者又ハ整理委員ハ市町村長ノ證明ヲ得テ整理地區ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管廳又ハ市役所、町村役場ニ對シ無償ニテ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得

第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルモ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ整理施行ノ爲溝渠、堤塘又ハ道路ノ敷地ニ充テタル土地ニ付テハ規約ヲ以テ補償ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 整理施行ノ爲必要アルトキハ整理地區内ノ工作物、木石等ヲ移轉シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ヲ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受ケタル者ハ整理ニ關シテ其ノ讓渡人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス

第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠、堤塘、道路等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ參加土地所有者ニ交付ス

整理地區内ニ開設シタル溝渠、堤塘、道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十一條 參加土地所有者ニハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシ換地ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ從前ノ土地ト換地トノ價額ノ差ハ金錢ヲ以テ之ヲ清算ス

數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テハ其ノ換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第十二條 整理地區ニ市町村以上ニ涉ル場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ土地ハ二市町村以上ニ涉ルコトヲ得ス

第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更廢置ハ地目變換又ハ開墾ト看做サス

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其ノ地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スルマテ從前ノ地域、地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收ス

第十五條 整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第十六條 整理施行ヲ爲シタル爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

第十七條 本法ニ於テ參加土地所有者ト稱スルハ整理地區内ニ於テ第五條ノ土地ニアラサル土地ヲ所有スル者ヲ謂フ

第十八條 整理地區ノ屬スル市町村及其ノ隣接市町村ニ住處ヲ有セサル參加土地所有者ハ其ノ市町村内ニ住所ヲ有スル者ニ委任シテ整理施行ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理セシムルコトヲ得

參加土地所有者前項ノ代理人ヲ定メタルトキハ發起人及整理委員ニ其ノ氏名住所ヲ通知スヘシ
代理者ハ二人以上ノ參加土地所有者ヲ代理スルコトヲ得ス

第十九條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條第四十條及第四十八條ノ認可アリタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ第四條ニ依ル建物所有者及土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲シタル第三權利者ニ通知スヘシ第三十條乃至第三十二條ノ命令アリタルトキ亦同シ

第二章 發起及監督

第二十條 整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト

二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積三分ノ二以上ナルコト

三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價額整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト

前項ノ條件ヲ具備シタルトキハ發起人ハ整理施行ヲ發起スル旨ヲ市町村長ニ届出ヘシ

第二十一條 發起人ハ發起ノ爲必要アルトキハ市町村長ノ認許ヲ得テ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第二十二條 發起人ハ設計書及規約ヲ作り地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理ニ因リテ得ヘキ利益

二 整理施行ノ方法及順序

三 整理地區及之ニ隣接スル土地ノ現形圖

四 整理豫定圖

五 工事ノ著手及竣成ノ時期

六 整理費用及夫役ノ豫算

第二十四條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理總會ノ招集及會議ノ方法

二 整理委員ノ員數、職務及職務執行方法

三 處務ニ關スル規定

四 補償金評定ノ標準

五 發起及整理ノ費用並夫役ノ賦課徵收方法

六 整理中土地使用ノ方法

七 換地割當及増歩地處分ノ方法

第二十五條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創業總會ヲ招集シテ設計書及規約ノ議定ヲ求ムヘシ

第二十六條 創業總會ニ於テ設計書及規約ヲ議定シタルトキハ發起人ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ之ヲ差出シ整理施行ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十七條 整理施行ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創業總會ヲ召集スヘシ此ノ總會ニ於テハ參加土地所有者整理委員ヲ互選ス

第二十八條 參加土地所有者ハ整理施行ノ認可ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ所有者ハ認可公告ノ日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

訴願ノ裁決前ニ於テハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス

第二十九條 整理施行ノ認可アリタルトキト雖第三條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地アルトキハ認可公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過スルニアラサレハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス

第三十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ設計書又ハ規約ノ變更ヲ命シ又ハ整理施行發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十一條 設計書ニ定メタル工事著手ノ期限後十二箇月以内ニ工事ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ一時整理工事ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三十二條ノ二 農商務大臣ハ整理施行ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三章 總會

第三十三條 總會ハ參加土地所有者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十四條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ五日前ニ各參加土地所有者ニ通知ヲ發スヘシ前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スヘシ

參加土地所有者ハ前二項ノ手續ニ反シテ爲シタル決議ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得但シ其ノ決議ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 總會ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外整理委員之ヲ召集ス

第三十六條 參加土地所有者ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ整理地區ノ總面積若ハ地價總額ノ五分ノ一以上ニ當ル參加土地所有者ハ會議ノ目的及其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ發起人又ハ整理委員ハ十四日以内ニ總會ヲ召集スヘシ

第三十七條 各參加土地所有者ハ一箇ノ決議權ヲ有ス

前項ノ規定ハ規約ヲ以テ一人ニ付二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ妨ケス但シ其ノ議決權ハ議決權五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十八條 整理地區ニ編入シタル土地收入ノ共有ニ屬スルトキハ其ノ共有者ハ參加土地所有者ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムヘシ

第三十九條 農商務大臣ノ命令ニ依ラスシテ設計書若ハ規約ヲ變更シ又ハ整理施行ヲ停止若ハ廢止セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ヘシ

前項ニ依リ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其ノ停止中若ハ廢止後ノ處分方法ヲ決議スヘシ

第四十條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 創業總會ノ決議並第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ決議ヲ爲スニハ第二十條第一項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第四章 整理委員

第四十二條 整理委員三人以上ナルトキハ委員長一人ヲ互選スヘシ
委員長ハ整理委員ヲ代表ス

第四十三條 整理委員ハ規約ニ定メタル職務ヲ執行スルニ付參加土地所有者ヲ代表ス

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理工事ノ施行、整理ニ關シテ生シタル債務ノ辨濟其ノ他整理施行ニ關シ一切ノ事務ヲ處理スルノ責ニ任ス

第四十五條 整理委員ハ設計書、規約及總會ノ決議録ヲ備ヘ置クヘシ

參加所有者及第三權利者ハ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 農商務大臣ハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十七條 整理工事完了シタルトキハ整理委員ハ第十一條ノ處分及増歩地ノ處分ニ關シ整理總會ノ決議ヲ經

ヘシ

第四十八條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條 所有權ニ關スル訴訟ノ目的タル土地ヲ整理地區ニ編入シ又ハ整理地區ニ編入シタル土地其ノ所有

權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取

ルヘキトキハ整理委員ハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ金額ヲ供託スヘシ

第五十條 整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ整理委員ハ參加土地所有者ニ代リ

テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ事業報告書及收支決算書ヲ作り整理總會ノ承認ヲ求ムヘシ

整理總會前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ整理委員ハ遲滞ナク地方長官ヲ經由シテ前項ノ書類ヲ農商務大臣ニ差

出スヘシ

第五十二條 整理委員其ノ職務ヲ終リタルトキハ整理ニ關スル一切ノ書類ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ノ書類ノ保存期間ハ農商務大臣之ヲ定ム

第五十三條 整理委員ノ選任及解任ハ總會ノ決議ニ依ル

第五十四條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理委員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 整理委員ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ學術技藝アル者ヲ協議員ト爲スコトヲ得

協議員ハ總會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得

第五章 第三權利者

第五十六條 第三權利者ハ整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述ブルコトヲ得ス

第五十七條 換地ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外從前ノ土地ニ關スル物權又ハ債權ノ目的タルモノトス

整理施行ハ從前ノ土地ニ關スル登記ノ順位ニ影響ヲ及ボサス

第五十八條 整理地區ニ編入シタル土地ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者第

十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ

先取特權者、質權者又ハ抵當權者ハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル金額ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第五十九條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハ

サルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ第四十八條ノ認可ノ公告アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シ

タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ各當事者ハ相手方ニ對シテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルトキハ

賃借人ハ賃借人ニ對シテ借賃ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 整理地區ニ編入シタル土地ニ地上權者又ハ永小作權者アル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ設

定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者又ハ永小作權者アル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ設

民法第二百六十八條第一項但書ノ規定ハ地上權又ハ永小作權ノ拋棄ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第六十條ノ規定ハ地上權及永小作權ニ之ヲ準用ス

第六十三條 整理地區ニ編入シタル土地ノ上ニ存スル地役權ハ整理施行ノ後仍其ノ土地ノ上ニ存ス

地役權者ハ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消

滅ス

整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於

テ地役權ノ設定ヲ要求スルコトヲ得

第六章 費用

第六十四條 費用及夫役ハ規約ノ定ムル所ニ依リ參加土地所有者之ヲ負擔ス

整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ日本勸業銀行又ハ農工銀行ヨリ借入レタル金額及其ノ利子ニ付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ス

第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ整理委員ノ請求ニ依リ市町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス

前項徵收金ハ整理地區ニ編入シタル土地ニ關シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス

參加土地所有者夫役ヲ供給セサルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ亦前二項ノ規定ニ依ル

第七章 罰則

第六十六條 發起人又ハ整理委員左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ二圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十九條ノ規定ニ違反シテ公告又ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第二十八條第二項又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シテ整理工事ニ著手シタルトキ

三 第三十六條第二項ノ規定ニ違反シテ總會ヲ招集セサルトキ

四 第三十九條及第四十條ノ手續ニ依ラスシテ整理施行ヲ停止シ又ハ廢止シタルトキ

第六十七條 前條ニ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 整理施行ノ爲設ケタル標石又ハ標杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル場合ニ於テ刑法第四百二十條ニ該當セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 附則

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖繩縣及市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設

ケルコトヲ得

第八章 森林法

明治三十年四月十二日
法律第四十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

第十四編 土地 林野 第八章 森林法

- 一 土砂崩流流出ノ防備ニ必要ナル箇所
 - 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
 - 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
 - 四 頽雪、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
 - 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
 - 六 魚附ニ必要ナル箇所
 - 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
 - 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
 - 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所
- 第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得
- 第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得
- 第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

- 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ
- 第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十四條 保安林ノ編入解除ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得
- 第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ
- 第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

- 第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ
- 第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得
- 第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
- 第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得
- 第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得
- 第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得
- 第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林園有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス
- 前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得
- 損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス
- 第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置ケヘシ警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲スコトキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ攜帶スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ貳圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ貳圓以上贓物二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

- 一 根株ヲ毀壞若ハ隠蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ
- 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
- 三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石炭、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
- 四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隠匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故賣若シハ牙保ヲ爲シタル者ハ貳圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ貳圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他

人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、桐其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅滯納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命ズルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ例ル

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第九章 國有林野法

明治三十二年三月二十三日
法律 第八十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有林野法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野法

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組織ヲ爲スコトヲ得組織ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺上地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ

鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
- 三 社寺上地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ
- 五 民有地、道路、河川等ニ介入スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ
- 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
- 七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其事業ヲ成功シタ

ル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ

四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ

五 一箇年貸付料參百圓ヲ超ユサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ

但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二 家屋、倉庫其ノ他建設物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、

森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得

一 一段別一町步以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ

二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地

公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途

ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條 社寺上地ノ森林ハ其社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得法令、慣行又ハ

其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部分ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ

報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附 則

第十四編 土地 林野 第九章 國有林野法

一一六五

一一六四

第二十六條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス
第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

第十章 社寺保管林規則

明治三十二年八月三日
勅令第三百六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ社寺保管林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
社寺保管林規則

第一條 社寺土地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用ノ爲一時
之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ス

社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資費ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第五條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
 - 二 盜伐、誤伐、冒濫、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
 - 三 有害動物ノ豫防及驅除
 - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
 - 五 稚樹ノ保育
 - 六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行要ヲ爲スコト

第六條 社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主產物ヲ採取スルコトヲ得

根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

第七條 社寺ハ林地ノ資費ヲ爲ササル副產物ヲ採取スルコトヲ得

第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ採取產物ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ產物ヲ採取スル權利ヲ失フ

第九條 左ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得

- 一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ
 - 二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ
 - 三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ
 - 四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ
- 前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス
- 第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管理保管林
ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附 則

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ従前ノ例ニ依ル

第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林ト爲スコトヲ
得

第十一章 國有林野部分林規則

明治三十二年八月三日
勅令第三百六十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ國有林野部分林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野部分林規則

第十四編 土地 林野 第十一章 國有林野部分林規則

- 第一條 國有林野ニ部分林ヲ設定スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 部分林ノ收益分収ノ部合ハ地代及造林費ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム
造林者ノ分収部合ハ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第三條 造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非レハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス
- 第四條 造林者ハ部分林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ
- 第五條 造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ植樹ヲ終ルヘシ
大林區署長ハ己ムヨリ得サル事由アリト認ムル場合ニ限り造林者ノ請求ニ依リ二年以内ニ於テ植樹期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得
- 第六條 造林者植樹準備又ハ手入ノ爲部分林ニ耕作ヲ爲サントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 造林者ハ左ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スル義務ヲ負フ
 - 一 火災ノ豫防及消防
 - 二 盜伐、誤伐、冒認、侵襲其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
 - 三 有害動物ノ豫防及驅除
 - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
 - 五 稚樹ノ保育
 - 六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 第八條 造林者ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得
 - 一 下草、落葉及落枝
 - 二 樹實及菌莖ノ類
 - 三 部分林設定後天然ニ生育シタル雜木
 - 四 植樹後二十年以内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木
- 第九條 部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ニシテ雜木ニ非サルモノハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス

- 第十條 根株ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外、國ノ所有トス
- 第十一條 部分林ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分収ス但シ國ノ分収スヘキ樹木ヲ保存スル必要アルトキハ材積ヲ以テ分収ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 代金ヲ以テ分収スルトキハ樹木ノ賣拂ハ當該官廳之ヲ行フ
材積ヲ以テ分収スルトキハ造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ分収樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ
前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス
大林區署長ハ己ムヨリ得サル事由アリト認ムル場合ニ於テハ二年以内ヲ限り搬出期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延長期間ニ對スル地代ヲ前納セシムヘシ
- 第十三條 造林者搬出期間内ニ分収樹木ノ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ搬出セサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス
- 第十四條 大林區署長ハ森林經濟上利益ナリト認ムル場合ニ限り造林者ノ請求ニ因リ十年以内ニ於テ部分林ノ存續期間又ハ伐期ヲ變更スルコトヲ得
- 第十五條 部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分収部合ニ依リ之ヲ分収ス
- 第十六條 天災其ノ他避クヘカサル事變ニ因リ契約無効ト爲リタル場合ニ於テハ現存ノ樹木ハ分収部合ニ依リ之ヲ分収ス己ムヨリ得サル事由ニ因リ造林者契約ノ解除ヲ願出テ之ヲ許可シタル場合亦同シ
- 第十七條 造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ造林者ノ責ニ歸スヘカサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 植樹期間ノ始期ヨリ一年ヲ經過スルモ植樹ニ著手セサルトキ
 - 二 植樹期間内ニ植樹シタル面積カ總面積ノ二分ノ一ニ及ハサルトキ
 - 三 植樹期間延長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ其ノ期間内ニ植樹ヲ終ラサルトキ
 - 四 植樹ヲ終リタル後五年ヲ過グルモ成林ノ見込ナキトキ
 - 五 造林者其ノ部分林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ
- 第十八條 前條ノ規定ニ依リ部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ部分林設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ既植

ノ樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十九條 造林者部分林ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス部分林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附 則

第二十條 明治十一年三月内務省甲第四號布達部分木仕付條例ハ之ヲ廢止ス

第二十一條 第二條ノ規定ハ國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ存續期間ノ定ナキモノ又ハ其ノ期間本令施行ノ日ヨリ起算シテ八十年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ部分林ノ存續期間及伐期ハ現存スル樹木ノ年齢ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第二十三條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ天然ニ生育シタル雜木ノ分收ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ雜木ハ部分林ノ樹木ト看做ス

第十二章 國有林野委託規則

明治三十二年八月三日
勅令第三百六十四號

朕國有林野委託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野委託規則

第一條 市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置、線故及其ノ地方ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 委託林野ノ委託期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 受託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐、誤伐、冒認、侵襲其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 稚樹ノ保育

六 大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト

第五條 左ノ委託林野產物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得

一 末木、枝條及枯倒木

二 手入ノ爲伐採スル樹木

三 自家用薪炭材

四 土地ノ資質ヲ爲ササル副產物

第六條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得

一 受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ

二 受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

三 受託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ受託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第七條 受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

附 則

第八條 本令施行前ニ副產物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第九條 本令施行前ニ副產物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其採取者ノ出願ニ依リ委託林野ト爲スコトヲ得

第十三章 不要存置國有林野賣拂規則

明治三十八年十二月二十八日
農商務省令第三十三號

不要存置國有林野賣拂規則左ノ通改正ス

不要存置國有林野賣拂規則

第一條 不要存置國有林野ヲ賣拂ハントスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 地籍及面積
- 二 願書差出ノ期間及場所
- 三 產物アルトキハ其ノ種類及數量
- 四 部分林ナルトキハ其ノ存續期間及分收部分
- 五 保安林ナルトキハ其ノ種類
- 六 附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
- 七 其ノ他必要ト認ムル事項

公告ハ官報ニ掲載シ並林野ノ屬スル大小林區署、郡市役所、町村役場ニ揭示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

第二條 國有林野法第八條第一號、第三號、第四號、第六號及第七號ノ場合ニ於テ不要存置國有林野ヲ賣拂ハムトスルトキ又ハ同條第五號ノ場合ニ於テ不要存置國有林野ヲ其ノ接續地ノ所有者ニ賣拂ハムトスルトキハ各當事者ニ前條各號ニ掲ケタル事項ヲ通告シテ公告ニ代フルコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ハ賣拂豫約ニ基キ又ハ公用若ハ公益事業ノ爲不要存置國有林野ヲ賣拂ハムトスル場合ニハ之ヲ適用セサルコトヲ得

第四條 第二條ニ依リ通告ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ國有林野法第八條第二號ニ依ル賣拂ノ出願ヲ爲サシムル爲其ノ林野ノ屬スル市町村長ニ通告ヲ爲スコトヲ得

- 一 願書ノ差出期間内ニ願書ヲ差出ササルトキ
- 二 賣拂ノ許可ヲ得サルトキ

三 賣拂許可ノ取消ヲ受ケタルトキ

四 賣買契約ノ解除アリタルトキ

第五條 不要存置國有林野ノ賣拂願書ハ別紙書式ニ準シテ之ヲ作ルヘシ

第六條 左ニ掲ケタル者ニハ他ノ出願者ニ先チテ賣拂ヲ爲スコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲出願スル者
- 二 社寺土地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺
- 三 國有林野法施行規則第七條ノ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ緣故者
- 四 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ借地人
- 五 國有林野法施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ事業ヲ成功シタル者
- 六 市町村ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村、公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村、町村學校組合若ハ其ノ區
- 七 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ニ在リテハ其ノ接續地ノ所有者

第七條 同一ノ林野ニ對シ二人以上ノ出願者アルトキハ農商務大臣ハ各出願者ニ對スル賣拂ノ順位及區域ヲ定ム

第八條 不要存置國有林野ヲ競争入札ノ方法ニ依リ賣拂ヒタル場合ニ於テハ落札者ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ賣買契約ヲ締結スヘシ

前項賣買契約ニ關シテハ國有林野法施行規則第七條ノ五乃至第七條ノ八ノ規定ヲ適用ス

第九條 本則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五編 社寺 宗教

第一章 官社以下定額及神官職員規則

官社以下定額及(神官職員)規則等別紙ノ通被仰出尤府藩縣社郷社ノ分ハ先達テ差出候明細書ヲ以テ取調區別ノ上追テ神祇官ヨリ差圖ニ可及候條其節萬端處ノ儀同官へ可相伺事

一 神官從來ノ敘爵總被止候事

一 官社以下府藩縣社郷社神官總テ其地方貫屬支配タルヘク本籍ノ儀ハ士族民ノ内適宜ヲ以テ編解可致事

官社

加茂別雷社	山城國	丹生川上神社	同上	日	前	宮	紀伊國
加茂御祖神社	同上	枚岡神社	河内國	國	懸	宮	同上
男山八幡官	同上	大島神社	和泉國	出	雲	社	出雲國
松尾神社	同上	住吉神社	攝津國	宇	佐	宮	豐前國
平野神社	同上	生國魂神社	同上	霧	島	宮	大隅國
稻荷神社	同上	廣田神社	同上	伊	井	社	淡路國
大神社	大和國	永川神社	武藏國	香	椎	宮	筑前國
大和神社	同上	安房神社	安房國	宮	崎	宮	日向國
石上神社	同上	香取神社	下總國	梶	原	宮	大和國
春日神社	同上	鹿島神社	常陸國	平	安	宮	京都府
廣瀨神社	同上	三島神社	伊豆國	氣	比	宮	越前國
龍田神社	同上	熱田神社	尾張國	鹿	兒	宮	大隅國
		日吉神社	近江國	鶴	戶	宮	日向國